# 令和3年度第1回上越市食育推進会議次第

日時:令和3年8月18日(水)

午後1時30分から

会場:上越文化会館 大会議室

- 1 開 会
- 2 交代委員、職員紹介
- 3 会長挨拶
- 4 議事
  - (1) 令和2年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表の確定値について
  - (2) 第4次上越市食育推進計画について
  - (3) その他
- 5 その他
- 6 閉 会

# 上越市食育推進会議委員名簿

(令和3年4月1日~)

No.		氏	名		選出区分	備考
1	内	Щ	_	晃	学識経験者	上越医師会理事(內山医院院長)
2	野	П	孝	則	学識経験者	上越教育大学大学院教授
3	小	林	綾	子	学識経験者	新潟県立看護大学講師
4	柳	沢	幸	也	学識経験者	新潟県立高田北城高等学校長
5	宮	﨑	容	子	学識経験者	上越市小・中学校長会(上越市立谷浜小学校長)
6	難	波	久美	美子	学識経験者	公立保育園園長会(上越市立大瀁保育園長)
7	岩	井	文	弘	公募に応じた市民	
8	栗	間	良	子	公募に応じた市民	
9	佐々	木	亜	子	事業者	えちご上越農業協同組合 営農部地域ふれあい課 調査役
10	拟	谷		勝	事業者	株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 総合渉外部 新潟・北陸ゾーン 行政推進担当
11	早	津	知	祥	事業者	上越地域農業者グループ「ひかり」
12	桝	谷	友	美	食育関係団体の代表者	新潟県栄養士会上越支部副支部長 (上越福祉会 にしき園)
13	松	井	和	代	食育関係団体の代表者	上越市総合型スポーツクラブネット運営委員
14	長	井	慎	也	食育関係団体の代表者	柿崎を食べる会会長
15	北	Ш		渚	食育関係団体の代表者	上越教育大学食育サークル「Heart」
16	大	Щ		仁	市の職員	健康子育で部長
17	空		周	_	市の職員	農林水産部長
18	市	Ш		均	市の職員	教育部長

上 越 市

ページ	事業No.及び事業名	事業担当課
1	(1)-① 母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)	健康づくり推進課
2	(1)-② 乳幼児期の食育推進	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
3	(1)-③ 学校における食育の推進	学校教育課
4	(1)-④ 思春期・青年期の食育の推進	健康づくり推進課・学校教育課・農政課
5	(1)-⑤ 保健指導事業	健康づくり推進課
6	(1)-⑥ 保健指導事業	健康づくり推進課
7	(1)-⑦ 母子保健事業、保健指導事業	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
8	(1)-⑧ 歯科保健事業の推進	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
9	(1)-9 健康づくり支援店の拡大	健康づくり推進課
10	(1)-⑩ 身体機能維持支援事業	健康づくり推進課
11	(2)-① 保健指導事業	健康づくり推進課
12	(2)-② 保健指導事業	健康づくり推進課
13	(2)-③ 生活習慣病予防事業	健康づくり推進課
14	(3)-①-① 家庭菜園での栽培体験等の推進	農政課・関係課
15	(3)-①-② 食に関するイベント等の実施	農政課・関係課
16	(3)-①-③ 食生活の改善に必要な情報提供	農政課・関係課
17	(3)-①-④ 家族での共食についての啓発活動	農政課
18	(3)-②-① 保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動	学校教育課・保育課
19	(3)-②-② 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	学校教育課
20	(3)-2-3 特色ある食に関する教育活動の推進	学校教育課
21	(3)-(3)-(1) 保健指導事業、食生活改善事業	健康づくり推進課
22	(3)-③-② 日本型食生活の普及活動	農政課・関係課
23	(3)-③-③ 国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動	農政課・関係課
24	(3)-(3)-(4) 地域での共食についての情報提供	農政課
25	(4)-① 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	社会教育課
26	(4)-① 謙信KIDSプロジェクト	社会教育課
27	(4)-① 「発酵のまち上越」の啓発活動	上越ものづくり振興センター
28	(4)-② 地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	教育総務課
29	(4)-③ 地産地消推進の店認定事業	農政課
30	(5)-① 食育推進関連団体との連携強化	農政課・関係課
31	(5)-② 健康づくり推進協議会の開催	健康づくり推進課
32	(6)-① 食育に関する積極的な情報提供	農政課・関係課
33	(6)-① 給食だよりの発行による情報提供	教育総務課
34	(6)-② 食育フォーラムの開催	農政課・関係課
35	(7)-① 食の安全に関する情報発信	健康づくり推進課
36	(7)-② 農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施	農村振興課
37	(7)-③ 農林水産物等の放射性物質検査の情報発信	農村振興課・農林水産整備課
38	(8)-① 地域食材による給食の提供	教育総務課
39	(8)-① 学校給食用野菜産地の育成	農政課
40	(8)-② 直売所情報の発信	農村振興課
41	(9)—(1) 園芸振興事業	農政課
42	(9)-(2) 農林漁業体験活動等の情報提供	農村振興課
43	(9)-(3) 都市と農村の交流促進	農村振興課
44	(10)-(1) 多面的機能支払(生物多様性保全の推進)	農林水産整備課
45	(10)-(1) 環境保全型農業直接支援対策	農政課
46	(10)-② 桑取川魚の森づくり事業	農林水産整備課
47	(10)-③ 食品ロス削減に関する啓発活動	農政課

事業No.及び事業名	(1)-① 母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)	
事業担当課	健康づくり推進課	
取組の概要	妊婦が正常な妊娠の維持と出産ができるよう、また妊婦健診の結果に応じた生活が分かるようにし、 両親の将来の生活習慣病予防にもつなげる。	

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	すくすく赤ちゃんセ ミナーを実施し、妊				
(争未订四)	産婦等へ食育の啓発 を行う。				
(目標)	妊婦やその家族が妊 婦の食生活の重要性				
( in the )	について理解を深める。				

A オスルロコス かし				
	令和元年度	令和2年度		
目標達成状況	0	〇 (計画された事業に取り組み成果が挙がった)		
主な事業実績	振・出産・育児の正しい知識を学び、妊娠期から子どもの発育や発達・育児について考える機会を持ち、子どもが健やかに育つことができるよう支援した。あわせて、妊婦とその家族に対し、食生活の重要性を理解し、生活の中で取り組めるよう支援した。	・事業実施後のアンケートから、「自分の生活を見つめ直す機会となった」「食生活について具体的なイメージができてよかった」 等、生活と食べ方を結びつけた感想が聞かれた。 ・すくすく赤ちゃんセミナー(中期)		
今後の課題 ・ 反省点	ることから、妊婦やその家族が食生活や休養	・生涯を通じた健康づくりは妊娠期から始まることから、妊婦やその家族が食生活や休養等の生活習慣の重要性について、理解を深めることができるよう支援を継続していく必要がある。		

事業No.及び事業名	(1)-② 乳幼児期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識の啓発や、生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	母子健診、離乳食相 談会、訪問、保育 園・認定こども園・				
(事業計画)	幼稚園の健康講座を 実施し、健全な食生 活の啓発を行う。				
(目標)	肥満、やせの子ども を減らす。				
(100)					

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	△(計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	【健康づくり推進課】 ・離乳食相談会、乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあった食生活について、健康教育を実施した。また、必要に応じて、個別相談や家庭訪問による保護者への支援を実施した。 ・3歳児健診における状況 肥満傾向児の割合 平成30年度 4.9%→令和元年度 6.5% やせの割合 平成30年度 0.3%→令和元年度 0.4%	【健康づくり推進課】 ・離乳食相談会、乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあった食生活について、健康教育を実施した。また、必要に応じて、個別相談や家庭訪問による保護者への支援を実施した。 ・3歳児健診における状況 肥満傾向児の割合 令和元年度 6.5%→令和2年度 6.8% やせの割合 令和元年度 0.4%→令和2年度 0.4% ・肥満傾向児の割合を減らすため、全ての乳幼児健診において、肥満度の算出、成長曲線への割会をでい、保護者自らが子どもの体重の伸びを視覚的に確認できるように支援した。また、「歳児健康診査以降のすべての幼児健康診査に個別の栄養相談による支援を行った。 【保育課】 ・保育園及び認定こども園において、「成長曲線」の活用を行い、保護者が子の身長、体重をグラフに自ら記入し、子の発育状態を視覚的に確認した。・・肥満傾向の園児については、園と地区担当の保健師、栄養士が連携し、保護者面談等の支援を行った。 【学校教育課】 ・公立幼稚園では、日常的に紙芝居や絵本などを用いて、望ましい食習慣が身につくよう指導を実施した。 ・「成長曲線」を活用し、肥満傾向にある園児について、保護者と面談して栄
今後の課題 ・ 反省点	【健康づくり推進課】 ・肥満傾向児の減少に向けて、3歳児健康診査までの乳幼児健診において、生活リズムや発育発達にあわせた食生活についての健康教育を充実していく。また、成長曲線を活用した個別指導を充実していく。・3歳児健康診査以降、園や学校、必要に応じて医療機関と連携し、保護者及び家族への支援を継続していく必要がある。 【保育課】・肥満ややせの減少に向け、「成長曲線」を活用しながら、適切なタイミングで支援につなげていくことが必要である。 【学校教育課】 ・「成長曲線」を活用しながら個別相談を実施するなど、保護者への支援を継続するとともに、健康教育を充実させる。	た、成長曲線を活用した個別指導を充実していく。 【保育課】 ・肥満ややせの減少に向けて、「成長曲線」を活用しながら、適切なタイミングで、保育園と関係機関、家庭が連携して、園児の生活リズムや食事、運動あそびの支援を充実させる必要がある。 【学校教育課】 ・「成長曲線」「肥満度曲線」を活用しながら、個別相談を充実させ、保護者

事業No.及び事業名	(1)-③ 学校における食育の推進	
事業担当課	学校教育課	
取組の概要	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を実施する。	

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	給食だよりを毎月発 行するとともに、栄				
(事業計画)	養教諭や栄養職員と 連携した給食指導を 実施する。				
(目標)	児童生徒が食に対す る正しい知識につい				
( ) ( )	て理解を深める。				

★取租状况				
	令和元年度	令和2年度		
目標達成状況	0	〇 (計画された事業に取り組み成果が挙がった)		
主な事業実績		・食に関する全体計画に基づき、栄養教諭や栄養職員と連携して食		
今後の課題 ・ 反省点	・家庭や地域との連携をより充実、発展させ、様々な機会を通して食に関する情報発信、情報提供を継続する。	・今後も様々な機会を通じて、家庭や地域と連携し、食に関する情報発信・情報提供を継続していくことが必要である。		

事業№.及び事業名	(1)-④ 思春期・青年期の食育の推進
事業担当課	健康づくり推進課・学校教育課・農政課
取組の概要	学校保健委員会や授業の一環として、自分の体にあわせた食事のとり方等の指導を行い、心身の成長や健全な生活 習慣の基礎を確立するための支援を行う。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学校保健委員会や学校授業の中で身体の成長					
(事業計画)	発達にあわせた食事の 摂り方等を呼びかけ る。				
正しい食の知識を持っ (目標) た生徒や若者を増や					
	す。				

★取組状況			
A 42/11/1/200	令和元年度	令和2年度	
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙	がった)
主な事業実績	【健康づくり推進課】 ・思春期に関しては、生活習慣病予防に関する健康 講座を希望した南城高校、有恒高校、高田特別支援 学校、上越特別支援学校の4校で実施した。講座の 内容については、養護教諭と連携しながら、生徒の 実態に合わせた内容とした。	【健康づくり推進課】 ・思春期に関しては、生活習慣病予防に関する健康講座校、高田特別支援学校、上越特別支援学校、吉川高等特施した。講座の内容については、養護教諭と連携しながわせた内容とした。実施後のアンケートから、生徒自身が自分の生活をおらったことが同たた。・青年期に関しては、市民健康診査や健診結果説明会、健康教育において、自身の体の状態を理解し、生活習慣を行った。 【学校教育課】 ・学校教育課】 ・学校教育課】 ・を開催し、食について考える機会を設けた。・栄養教諭と連携し、教育活動全体を通じて食に関する【農政課】 ・昨年度に引き続き、高校生に向けた食育推進事業を上でった。・高田高校では、2年生を対象に家庭科の授業の中で食育行った。・高田高校では、2年生を対象に家庭科の授業の中で食育、高、大学、では、2年生を対象に家庭科の授業の中で食育、高、大学、では、2年生を対象に家庭科の授業の中で食育、高田高を実施した。・高田、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、	を希望は一般である。 を希望は一般で表現した。 を希望は一般で表現である。 を発見を表現である。 を表現である。 を表現である。 を見いる。 を見いる。 を見いる。 を見いる。 を見いる。 を見いる。 を見いる。 を見いる。 を見いる。 はいる。 を見いる。 はいる。 を見いる。 はいる。 を見いる。 はいる。 を見いる。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、
今後の課題 ・ 反省点	確認しながら、就職や進学等により、自立した生活 に向かう時期に、将来の見通しを立てながら、自ら の生活を振り返り、体の状態に合わせた食の選択力	【学校教育課】 ・実態及び健康課題に即した健康教育や取組を継続する 【農政課】 ・全世代を通じ切れ目のない食育を推進する中で、課題 代に対する食育推進が必要であることから、青年期一歩 を対象に、食育の専門知識を持つ大学と連携し、今後も がある。	しまながら、いると 実践力なる。 とないでももう。 とないでもらう。 とないでもらう。 とないでもらう。 とないでもらう。 とないでもらるる高 とないでもらった。 とないでもらった。

事業No.及び事業名	(1)-⑤ 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、適正な食事量の摂取を心がけ、生活習慣病の予防を 啓発する。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
健診結果説明会や 健康講座、個別訪 問など様々な場面					
(事業計画)	で、適正な食事量 の摂取、生活習慣 病予防の働きかけ をしていく。				
適正な生活習慣、 (目標) 食習慣を実践して					
	いる人を増やす。				

#### ◆取組状況

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	△ (計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	がるように支援した。	け、健診結果の改善につながるように支援した。 <結果説明会> 令和元年度 400回 参加者数 7,336人 令和 2 年度 292回 参加者数 4,523人  <家庭訪問・個別指導> 令和元年度 延べ 12,607人 令和 2 年度 延べ 7,530人  ・地域や職域での健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 令和元年度 377回 参加者数 12,857人 令和 2 年度 156回 参加者数 4,496人  ※新型コロナウイルス感染症の関係で、令和2年度は町内や企業での健康教育の中止が相次ぎ、回数および参加者数が減
今後の課題 ・ 反省点	集団での健診結果説明会は実施せず、すべて個別性を重視した支援方法(家庭訪問・個別指導等)に変更していく。感染予防に努めた上で、	・今後も町内や企業での健康教育が実施できるよう、新型コロナウイルス感染症の予防対策について相談や情報提供等の支援を行うとともに、個別性を重視した支援方法(個別結果説明会、家庭訪問等)で、市民に対し、健診を受け自らの健康状態を理解することの重要性を伝え、生活習慣病予防の普及・啓発活動を行う。

事業No.及び事業名	(1)-⑥ 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	高齢期での心身の変化を踏まえ、自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、健康維持のために必要な適正な食事量の摂取について啓発を行う。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地域で行う健康講座などで高齢期におけ					
(事業計画)	る適正な食事量の摂 取などについて啓発 を行う。				
正しい食の知識を (目標) 持った高齢者を増や					
(H)M	す。				

★取組状況			
	令和元年度	令和2年度	
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)	
主な事業実績	・健診結果説明会や家庭訪問では、自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるように支援した。 ・高齢者健康支援訪問を行い、自分の健康状態(建診結果)を把握し、改善につながるように支援した。 平成30年度 延べ 2,854件令和元年度 延べ 2,978件 ・地域の健康講座の中で健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 ・高齢者(65歳以上)の適正体重を維持している人の可以30年度 57.0%令和元年度 57.7% ・低栄養傾向(BMI20以下)と肥満(BMI25以上)の割合 〇低栄養傾向 平成30年度 20.6%令和活	・健診結果説明会や家庭訪問では、自分の健診結果と食生活付け、健診結果の改善につながるように支援した。 ・高齢者健康支援訪問を行い、自分の健康状態(健診結果)し、改善につながるように支援した。令和元年度 延べ 2,978件令和2年度 延べ 2,617件 ・地域の健康講座の中で健康教育を行い、健診結果と食習慣がりについて説明した。 ※以下の項目の経年推移について、令和2年4月から「日本人摂取基準」に高齢者の低栄養予防・フレイル予防が加わり、上のBMI下限が引き上げられた為、新基準で記載をする。(後令和元年度までの適性体重BM120.0~24.9、の適性BM121.5~・高齢者(65歳以上)の適正体重を維持している人の割合令和元年度 41.3% ・高齢者(65歳以上)の低栄養傾向(BM121.4以下)令和元年度 35.2%令和2年度 36.8% ・高齢者(65歳以上)の肥満(BM125以上)令和元年度 22.0%令和2年度 21.9%	・
今後の課題 ・ 反省点	・高齢期の特性を踏まえ、栄養バランスの偏りなどによる低栄養や生活習慣病などの問題を未然に防ぎ、健康寿命を延ばせるよう、健康状態に応じた食生活を実践できるよう支援を継続していく必要がある。 ・さらには、高齢期の健康を維持するために、より早い段階から適正な食事量の摂取などについて啓発を行い、低栄養の予防等を推進していく必要がある。	・高齢期の特性を踏まえ、栄養バランスの偏りなどによる低生活習慣病などの問題を未然に防ぎ、健康寿命を延ばせるよ康状態に応じた食生活を実践できるよう支援を継続していくある。 ・さらには、高齢期の健康を維持するために、より早い段階正な食事量の摂取などについて啓発を行い、低栄養の予防等していく必要がある。	う、健 必要が から適

事業No.及び事業名	(1)-⑦ 母子保健事業 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
各ライフステージで 行われる健康教育の 中に朝食をきちんと					
(事業計画)	摂ることの必要性についての内容を盛り 込み啓発をしてい く。				
	朝食を欠食する人を 減らす。				
(目標)	小学生0% 中学生0% 若い世代 10%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 9%以下	中学生0%	中学生0%	小学生0% 中学生0% 若い世代 6%以下

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	一(目標達成状況の評価なし)
主な事業実績	学校血液検査事業、学校保健委員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(企業での健康教育、各地区健康講座等)においてムと朝食をライフテージの特性を踏まえ、体のリズムと朝食をといることの必要性に関する健康教育を実施した。 【保育課】・公立保育園全園において、保健師や栄養士等が保護者や祖父母を対象に子どもの生活リズズムや食生活に関する「健康教育講座」を年15回実施した。また、国児に向けては、「食育集の中で、朝食に合いとの必要性についての内容も盛り込みながら実施している。・家庭用給食だより等を通じて、朝食の必要性に関する内容についても啓発をしている。 【学校教育課】	・家庭用給食だより等を通じて、朝食の必要性に関する内容についても啓発した。 【学校教育課】 ・健康的な生活行動が実践できるよう、生活リズムや食事、睡眠、運動の健康三原則に関する保健教育を実施した。 ※食育市民アンケートの実施を2年に1度とし、令和2年度は実施年度でなかったこと、学校での現況調査を行わなかったことから、目標に対する測
今後の課題 反省点	生活習慣病の重症化だけでなく、低栄養による要介護状態も懸念されることから、各ライフステージの特性を踏まえ、様々な場面を通じて健全な食生活についての健康教育を実施する必要がある。 【保育課】 ・引き続き、子ども、保護者、祖父母に向けた健	【健康づくり推進課】 ・乳幼児期からの肥満や生活習慣病の発症が懸念されることや、高齢期に おいては過剰栄養による生活習慣病の重症化だけでなく、低栄養による要 介護状態も懸念されることから、各ライフステージの特性を踏まえ、様々 な場面を通じて健全な食生活についての健康教育を継続して実施する必要 がある。 【保育課】 ・引き続き、子ども、保護者、祖父母に向けた健康教育講座や食育集会等 の取組を継続し、その中で朝食摂取の必要性について啓発を行っていく必 要がある。 【学校教育課】 ・今後も引き続き、朝食摂取の重要性について、様々な機会を通じて児童 生徒に指導を継続する必要がある。

事業No.及び事業名	(1)-⑧ 歯科保健事業の推進
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面でよく噛んで食べる習慣の啓発を行う。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
各ライフステージで 行われる歯科保健教 育の中でよく噛んで					
(事業計画)					
	ゆっくりよく噛んで 食べる人を増やす。				
(目標)	65%以上	66%以上	67%以上	68%以上	70%以上

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	ー(目標達成状況の評価なし)
主な事業実績	ついて啓発を行い、また1歳児以降については、定期的な歯科健診とブラッシング指導、希望者へのフッ素塗布、食生活指導等の健康教育や健康相談を実施した。 ・成人期においては、成人歯科健診とブラッシンが導、集団健診での保健指導を行った。また、歯科衛生士による歯周病予防の効果がある若い年代を中心に実施した。 【保育課】・乳児保育園を除くすべての保育園及び認定こども、別児保育園を除くすべての保育園及び認定こども、別児保育園を除くすべての保育園及び認定こども、別児保育園を除くすべての保育園及び認定こども、別児保育は、対さの講話とブラッシング指導を実施した。 【学校教育課】・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士を派遣し、ブラッシング指導並びに健康な歯を保つための取組を実施した。	科健診及び定期的な歯科受診のすすめ、ブラッシング指導を実施した。また、歯周病発症予防の年代である保育園保護者等に対し、歯科衛生士による歯周病予防講座を実施した。  【保育課】 ・ほぼ全ての保育園及び認定こども園(新型コロナウイルス感染拡大予防の対応で未実施の園が2園あり)に歯科衛生士等を派遣し、園児と保護者に歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。  【学校教育課】 ・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士を派遣し、ブラッシング指導及び健康な歯を保つための取組を実施した。 ・給食の時間に、よく噛んで食べることの重要性について指導を実施した。
今後の課題 ・ 反省点	が上がるにつれて歯周病と診断される人が増加しているため、幼児健診や離乳食相談会等の母子事業、すくすく赤ちゃんセミナーや町内会の健康講座等の様々な機会を通じて歯周病予防の啓発を継続して行っていく必要がある。 【保育課】	【健康づくり推進課】 ・生活リズムや食習慣の乱れ等により歯周病の発症が低年齢化している。引き続き、関係機関と課題の共有を図り、連携してライフサイクルに応じた保健指導の実施と定期的な歯科受診の必要性等について啓発を行っていく。 【保育課】 ・引き続き、保育園及び認定こども園での取組を継続していく。 【学校教育課】 ・引き続き、歯科保健教育を継続していく必要がある。

事業№.及び事業名	(1)-⑨ 健康づくり支援店の拡大
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	県と連携し、健康づくり支援店の普及をすすめる。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(車業計画)	市ホームページなど を通じ健康づくり支				
	援店制度に関する情 報提供を行う。				
	健康づくり支援店を 225軒以上にする。		健康づくり支援店を 230軒以上にする。		健康づくり支援店を 236軒以上にする。

	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	Δ (計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	・県と連携し、健康づくり支援店で食に関する取組を実施した。登録店は令和元年度末で227店舗、廃業や閉店により前年度より22店舗減少した。(県集計数値)	
今後の課題 ・ 反省点	ことができなかった。今後も保健所と連携しながら、健康づくり支援店増加の働きかけを 継続していく必要がある。	・店舗数は昨年度とほぼ変わらず、目標を達成することができなかった。今後も保健所と連携しながら、健康づくり支援店増加の働きかけを継続していく必要がある。 ・高血圧等の生活習慣病からの重症化予防を強化する必要があり、減塩等の取組について、保健所と連携しながら健康づくり支援店へ働きかけをしていく必要がある。

事業No.及び事業名	(1)-⑩ 身体機能維持支援事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で運動習慣の確立への働きかけをしていく。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
で行われる健康教	各ライフステージ で行われる健康教 育の中で運動習慣				
(爭來可圖)	(事業計画) 目の中で運動自損を確立させるための働きかけをしていく。				
	運動習慣のある人				
(口1赤/	を増やす。				

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	Δ (計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	・事業を上越市運動普及推進協議会に委託し、市の健康増進計画を踏まえ、広く市民に各年代の体の特徴にあった身体活動・運動習慣の定着につながるように支援を行った。 〈令和元年度〉 委託事業(運動普及事業・体力測定事業):169回 5,600人自主活動:553回 7,541人 ・健診問診項目で「30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している」人の割合〈令和元年度〉 20~64歳:21.4% (前年度比:0.7ポイント増)65歳以上:32.6% (前年度比:2.3ポイント減)	・新型コロナウイルス感染防止のため例年のような委託事業や自主活動ができなかった。 〈令和2年度〉 委託事業(運動普及事業・体力測定事業):6回 100人自主活動:193回 2,115人 ・健診問診項目で「30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している」人の割合 〈令和2年度〉 20歳~64歳:22.3%(前年度比:0.9ポイント増)65歳~74歳:30.8%(前年度比:1.8ポイント減) 75歳以上「ウォーキング等の運動を週1回以上している」人の割合:50.4%
今後の課題 ・ 反省点		・20〜64歳の継続的に運動を実施している人の割合は若干増加しているが、65歳以上に比較すると低いことから、働き盛り世代に身体活動・運動習慣の普及・啓発を継続実施する必要がある。

事業No.及び事業名	(2)-① 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	メタボリックシンドロームとなることにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、 改善についての啓発を行う。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
康講座等でメタホ	健診結果説明会や健 康講座等でメタボ				
(争未訂四)	業計画) リックシンドローム の予防・改善を啓発 していく。				
メタボリックシンド ロームに関係する健					
(目標)	診項目を改善させる。				

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	・健診結果説明会、生活習慣病予防講座等でメタボリックシンドロームのメカニズムについて説明し、予防や改善についての啓発を行った。  〈健診結果が改善した人の割合〉 ・高血圧Ⅱ度以上者 平成30年度 55.3%→令和元年度 54.6% ・HbA1c6.5%以上者 平成30年度 40.2%→令和元年度 50.4% ・LDLコレステロール140mg/dl以上者 平成30年度 45.1%→令和元年度 42.9%  〈特定保健指導実施率〉 ・法定報告値 令和元年度 68.4%	
今後の課題 ・ 反省点	る為、引き続き訪問や健診結果説明会などで保健 指導を実施し、有所見者の生活習慣改善や病院受	・年度途中の集計にて、改善しているかの判断はまだ出来ないが、基準値以上の検査数値の改善割合は約半数である。今後も引き続き訪問や健診結果説明会などで保健指導を実施し、有所見者の生活習慣改善や病院受診勧奨を促す。 ・高血圧 II 度以上に関しては長年の課題で解決されていないため、令和3年度から頸北地区(柿崎・大潟・頸城・吉川区)で健診時に尿中Na測定を実施予定である。高血圧の改善を目指し、生活習慣病重症化予防・介護予防につなげていく。

事業№.及び事業名	(2)-② 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	肥満により引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善についての啓発を行う。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
結果説明会や健康講 座等で肥満の予防・ 改善を啓発してい く。	座等で肥満の予防・				
適正体重を維持している人を増やす。					
(目標)	男性75%以上 女性85%以上				

★拟組状况		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	Δ (計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	・健診結果説明会や生活習慣病予防講座等で、1日の食品基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や 摂取する食品の種類に偏りがないかなど食生活を 振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を 行った。 〈適正体重を維持している人の割合〉 ・20歳代~60歳代の男性 70.3% ・20歳代~60歳代の女性 82.1%	・健診結果説明会や生活習慣病予防講座等で、1日の食品基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や摂取する食品の種類に偏りがないかなど食生活を振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を行った。  〈適正体重を維持している人の割合〉 ・20歳代~60歳代の男性 69.3% ・20歳代~60歳代の女性 80.6%
今後の課題 ・ 反省点	・特に、男性の肥満の割合が多い。 ・1日の食品基準量の展示を実施することにより、自ら食生活を振り返り、具体的な食習慣の改善に結びつくことから、今後も継続した取組が必要である。 ・肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等についても具体的なエネルギー量、糖質、脂質、純アルコール量などの成分表示を行い、本人の気づきを促すとともに食習慣の改善に結びつくよう支援していく必要がある。	・特に、男性の肥満の割合が多い。 ・1日の食品基準量の展示を実施することにより、自ら食生活を振り返り、具体的な食習慣の改善に結びつくことから、今後も継続した取組が必要である。 ・肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等についても具体的なエネルギー量、糖質、脂質、純アルコール量などの成分表示を行い、本人の気づきを促すとともに食習慣の改善に結びつくよう支援していく必要がある。また、交代勤務等による食事の時間や生活リズムの面からも支援方法を考えていく必要がある。

事業No.及び事業名	(2)-③ 生活習慣病予防事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	健診結果から対象者を設定し、各種教室を開催することにより、生活習慣病予防の普及・啓発を行 う。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
各種教室を開催し、					
(事業計画)	生活習慣病の予防の 普及・啓発を行う。				
	生活習慣病の予防や 改善のために普段か ら適正体重や減塩等				
(目標)	に気を付けた食生活を実践している人を増やす。				
	63%以上	65%以上	68%以上	70%以上	72%以上

スコスルエコスルし		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	ー(目標達成状況の評価なし)
主な事業実績	当者等に、糖負荷検査を7コース(1コース2回)、類動脈エコー・尿中アルブミン検査を5コース(1コース2回)実施。令和元年度検査実施者数:86人・妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するために、おか年度まで実施していたが、今年度からは個別訪問に切り替え実施している。令和元年度訪問数:46件・生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合食育市民アンケート結果:55.0%	令和2年度検査実施者数:58人 ・妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するため、個別訪問を実施。 令和2年度訪問数:17件 ※食育市民アンケートの実施を2年に1度とし、令和2年度は実施年度でなかったことから、目標に対する測定は不可(目標達成状況の評価なし)。
今後の課題 ・ 反省点	硬化の危険因子(血圧、HbA1c、LDLコレステロール等)の維持、改善にも効果が出ることから、今後も一人でも多くの人に講座に参加	生活習慣病予防講座に参加した人は、8割以上が翌年も健診を受診し、動脈硬化の危険因子(血圧、HbA1c、LDLコレステロール等)の維持、改善にも効果が出ることから、感染症対策を徹底の上、一人でも多くの人に講座に参加してもらえるよう、周知の徹底と集団指導だけでなく個別指導も含めた継続した取組が必要である。

事業No.及び事業名	(3)-①-① 家庭菜園での栽培体験等の推進
事業担当課	農政課・関係課
取組の概要	家庭菜園での作物栽培体験や男女年齢問わず誰もが家庭で料理することを推奨し、食物に愛着を持ち、生産や調理の苦労や楽しさを感じられるよう啓発する。

#### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
イベント参加者等 に対し野菜の種を 配布するほか、家 (事業計画) 庭で料理すること についてホーム ページ等で啓発す る。	に対し野菜の種を 配布するほか、家				
家庭で料理や栽培					
(目標)	体験をしている人 を増やす。				

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	ー(目標達成状況の評価なし)
主な事業実績	きる家庭菜園を提案したほか、食育広告入り野菜の種を配布し、栽培体験のきっかけを提供した。 ・市民農園を運営し、作物を作るきっかけを提供した。 市民農園契約者数(県外居住者含む)大島公社の大島園 21人牧公れあい農園 4人三和ふれあい農園 15人合計 40人(前年度比5人減)	・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに郷土料理や旬の地場食材を使用した料理のレシピを掲載し、家庭で料理をする一助とした。 【農村振興課】
今後の課題 ・ 反省点	や栽培体験の楽しさを市ホームページ「上越の	・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページへのアクセス数は、年々伸びている。直近では年末年始のアクセス数が多く、特にお雑煮などのお正月の郷土料理レシピに多くのアクセスがあった。 引き続き、家庭で料理をする一助となるよう、料理レシピサイトを活用し発信していく。

事業No.及び事業名	(3)-①-② 食に関するイベント等の実施
事業担当課	農政課・関係課
取組の概要	親子で参加できるイベント等の事業を通して、食育により子どもが健やかに育つための家庭環境づくり を支援する。

#### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
食育フォーラムや親子で参加できる料理 (事業計画) 教室など、食に関する親子対象の事業を 実施する。	子で参加できる料理				
食を通じた親子のふ					
(目標) れあいの機会を創出 する。					

★取組状况		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	・8月22日(木)親子食農体験教室 「上越野菜」振興協議会の主催事業。上越野菜の「なますかぼちゃ」と夏野菜の「特別でないではないでは、収穫物を使用した料理教室を開催した。親子11組23人が参加。 ・11月30日(土)食育実践セミナー2019料理研究家で栄養士の近に、親子のよる食育体験やクイズラリーよの展示等を通じ、親子で楽しみながら食についての学びを深めた。来場者数740人。 ・令和2年1月25日(土)親子料理教室「上越野菜」振興協議会主催事業。上越野菜の「アスパラ菜」と「ばななかぼちゃ」を使った料理教室を開催した。親子9組20人が参加。	【農政課】 ・食育実践セミナーにおいて、親子の食体験の場を提供する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。 【農村振興課】 ・8月5日(水)に「上越野菜」振興協議会主催で親子食農体験教室を開催。午前と午後に分け、上越野菜の「丸えんぴつなす」、「ひとくちまくわ」の収穫体験と料理体験を行った。 親子9組23人が参加。
今後の課題 ・ 反省点	・引き続き、親子で参加できる食に関する事業を実施する。 ・市ホームページ「上越の食育」掲載に至らなかった事業があったことから、担当者と連絡を密にし、市民への周知に努める。	・子どもに対する食育は、生涯に渡って心身の健康と豊かな人間性を育む基礎であり、子どもたちが食育を実践するためには、家庭における食育推進が重要である。今後も事業を継続的に実施するため、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた内容を検討する必要がある。

事業No.及び事業名	(3)-①-③ 食生活の改善に必要な情報提供
事業担当課	農政課・関係課
取組の概要	国が作成している「食育ガイド」を利用し、食育に関する基礎知識や、日常的な生活の中で一人ひと りが「何を意識して」「どのように食べるべきか」をわかりやすく市民に周知する。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
国が示している「食育ガイド」を定期的に学校関係者や食育(事業計画) イベント、健康指導などの食に関連した集会等で配布し啓発する。					
市民が食生活の改善 (目標) に必要な情報を得られる状態にする。					

X 4X 111 1X 100			
	令和元年度	令和2年度	
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)	
主な事業実績	育月間に国が示す「食育ガイド」、第3次食		
今後の課題 ・ 反省点		・紙媒体で配布する啓発物のほか、ウェブ上でいつでも食育情報が 得られるよう市ホームページ「上越の食育」の内容を充実させる。	

事業№.及び事業名	(3)-①-④ 家庭での共食についての啓発活動
事業担当課	農政課
取組の概要	家族での共食が、大切なコミュニケーションの場や、箸使いなど食事作法やしつけの重要な場である ことを啓発する。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市ホームページやイベントにおいて、家					
(争未订四)	(事業計画) 族揃って食事をとることの有益性を啓発する。				
市民が家族と共食す					
(目標) る回数を週平均11回 以上にする。					

へ イス・ルエーノく フし		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	ー(目標達成状況の評価なし)
		・市ホームページ「上越の食育」や6月の食育月間に市内の保育 園、幼稚園、小中学校へ食育啓発物を配布し、家族と共食すること の有益性について啓発した。
主な事業実績		※食育市民アンケートの実施を2年に1度とし、令和2年度は実施年 度でなかったことから、目標に対する評価測定は不可(目標達成状 況の評価はなし)。
今後の課題 ・ 反省点	・市民が家族と共食する回数は、食育市民アンケート結果から、目標値の平均11回に達しなかった。 ・引き続き、市ホームページ「上越の食育」等を通じ、共食の有益性を伝えながら啓発を行う。	・今後は新しい生活様式に沿った共食の視点を加え、引き続き、市 民に対し家族と共食することの啓発を行う。

事業№.及び事業名	(3)-2-① 保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動	
事業担当課	学校教育課・保育課	
取組の概要	食に関する様々な体験活動を通して、食に対する興味・関心を持たせる。	

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
体験活動を取り入れ (事業計画) た食に関する活動を 実施する。					
全ての保育園、幼稚 園、小中学校で体験					
(目標) 活動を取り入れた食に関する活動を実施する。					

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇 (計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	習と関連付けた栽培活動や農業体験を実施した。 ・保護者や生産者などと一緒に地域の特色を生かした食に関する活動に取り組んだ。 【保育課】・保育園では、畑やプランターでの野菜づくりを行った。また、それらの食材を使ったクッキング活動、給食食材としての活用、あそび(スタンピングや重さ当てクイズ等)な	・保護者や生産者などと一緒に各学校や地域の特色を生かした食に関する活動に取り組んだ。 【保育課】 ・保育園では、畑やプランターでの野菜づくりを行い、それらの食材を使ったクッキング活動、給食食材としての活用、あそび(スタンピングや重さ当てクイズ等)などを通し、子どもたちの食への関
今後の課題 ・ 反省点		【学校教育課】 ・今後も学校や地域の特色を生かした活動を継続し、食に関する興味・関心を持たせる必要がある。 【保育課】 ・引き続き、保育園では体験活動を取り入れた食に関する活動を継続し、食に対する興味・関心につなげていく必要がある。

事業№.及び事業名	(3)-②-② 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	
事業担当課	学校教育課	
取組の概要	家庭・地域と連携を図り、児童・生徒が自ら食育を実践できるよう教育活動を行う。	

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
全ての小中学校で地域の方等を招待した					
(争耒訂囲)	(事業計画) 給食試食会や食に関する学校保健委員会を実施する。				
児童生徒が栄養バラ ンスのとれた食事や					
(目標)	正しい食事マナーの 重要性について理解 を深める。				

★ 4X和1人元			
	令和元年度	令和2年度	
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)	
主な事業実績	・給食試食会や食をテーマにした学校保健委員会を実施し、家庭・地域との連携を図った。 ・学校保健委員会において協議した内容を「たより」として地域や家庭に発信した。	・給食試食会や学校保健委員会の内容を工夫するなどし、家庭・地域と連携した取組を実施した。 ・学校保健委員会において協議した内容を地域や家庭に「たより」として配信した。	
今後の課題 ・ 反省点	・食に関する興味関心を持たせるとともに、 食の重要性について理解を深められるよう、 地域、家庭との連携を深め、協力体制をつ くっていく。	・食に関する興味関心を持たせるとともに、食の重要性について理解を深められるよう、地域、家庭との連携を深め、協力体制をつくっていく。	

事業№.及び事業名	(3)-②-③ 特色ある食に関する教育活動の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	それぞれの地域や学校の伝統や文化等の特色をいかした食育推進を支援する。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
充実した食育活動を (事業計画) 推進するための情報 提供等を行う。	充実した食育活動を				
地域や学校の伝統や 文化等の特色をいか					
(目標)	した食育を実践して いる学校を増加させ る。				

	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	るとともに、食の重要性について理解を深め	・子どもたちに食に関する興味関心を持たせるとともに、食の重要性について理解を深められるよう、地域、家庭との連携や協力体制をもとに、特色ある食の体験活動を実践した。
今後の課題 ・ 反省点	・学校や地域の実態に合わせた食の体験活動 を継続していく。	・今後も学校や地域の実態に合わせた食の体験活動を継続していく 必要がある。

事業№.及び事業名	(3)-③-① 保健指導事業 食生活改善事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な事業でバランスのとれた食生活の推進(食品の基準量の普及・啓発)を行う。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
行われる健康教 中でバランスの	各ライフステージで行われる健康教育の中でバランスのとれ				
(事業計画)	た食事を摂ることの 必要性についての内 容を盛り込み啓発を していく。				
	主食・主菜・副菜を組み合せた食事を毎				
(目標)	日実践している人を増やす。				
	全世代 40% 若い世代 35%	全世代 50% 若い世代 40%	全世代 60% 若い世代 45%	全世代 70% 若い世代 50%	全世代 80% 若い世代 55%

	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	一(目標達成状況の評価なし)
主な事業実績	幼児期(各乳幼児健診、相談会)、学童期 (小中学校血液検査事業、学校保健委員会 等)、思春期(高校健康教育)、成業で 島齢期(健診時、健診結果説明会、企業を与えて 、地区健康講座等)において、のとれて フステーシることの必要性について健康教育 を実施した。 ・健康教育等で、体の状態に合わせ、具体的に何をどれだけ摂取すればよいかが理解でき	・健康教育等で、体の状態に合わせ、具体的に何をどれだけ摂取 すればよいかが理解できるよう、1日の食品基準量を展示した。
今後の課題 ・ 反省点	・若い世代から食生活の乱れが見られており、引き続き、各ライフステージにおいて 様々な場面での健康教育の実施が必要。	・若い世代から食生活の乱れが見られており、引き続き、各ライフステージにおいて様々な場面での健康教育の実施が必要。

事業№.及び事業名	(3)-③-② 日本型食生活の普及活動
事業担当課	農政課・関係課
取組の概要	米を中心に多様な農林水産物を食材とした副食で構成され、栄養バランスに優れた「日本型食生活」 を促進するため、有効な啓発資材を作成し配布するとともに、様々な媒体を活用してその普及を図る。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ルの作成・	啓発用クリアファイ ルの作成・配布やイ				
(事業計画)	(事業計画) ベントやホームページでの周知により、日本型食生活の利点について啓発する。				
	日本型食生活を実践				
(日保)	(目標) している人を増や す。				

	令和元年度	令和2年度		
目標達成状況	Δ	ー(目標達成状況の評価なし)		
	ンスのとれた食事、食生活上の指針の項目に おいて啓発を行った。	・市ホームページ「上越の食育」や、6月の食育月間の啓発において、日本型食生活の有益性を伝え普及に努めた。		
主な事業実績		※食育市民アンケートの実施を2年に1度とし、令和2年度は実施年度でなかったことから、目標に対する評価測定は不可(目標達成状況の評価はなし)。		
	・日本型食生活を実践している人の割合 食育市民アンケート結果:76.3% (前年度比 1.4ポイント減)			
	することができなかった。	・当市は良質な米が豊富に穫れる地域であることから、栄養バランスに配慮した食事という面だけでなく、米の消費拡大の面からもご飯を中心とした日本型食生活の普及に努める。		
今後の課題	大一などを通じ、日本空長生活の有益性を同   民に伝え、啓発を継続していく。			
反省点	20 C 12 10 C			

事業№.及び事業名	(3)-③-③ 国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動
事業担当課	農政課・関係課
取組の概要	国が定めている「食育月間」(6月)、「食育の日」(19日)を市民に周知し啓発に努める。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ントやホームペー (事業計画) を活用し、「食育 間」、「食育の日	広報やFM放送、イベ ントやホームページ				
	を活用し、「食育月間」、「食育の日」の普及啓発を行う。				
「食育月間」、「食 (目標) 育の日」を知ってい る人を増やす。					

★ 4X 和1人 / 儿	^	A 5-0
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	一(目標達成状況の評価なし)
主な事業実績	○6月の食育月間 ・啓発用のぼり旗を市役所1階ロビー及び農村振興課フロアに掲示したほか、FM上越にて啓発を行った。 ・市職員向け掲示板に、食育月間、食育の日の周知と食生活指針に沿った取組の推進について掲載し周知を図った。 ・上越教育大学の学生食堂に、上越市の食育推進の取組紹介パネルを展示した。 ・食育月間に合わせ、食育推進に関する啓発物(第3次計画概要版、食育ガイド、食品ロス削減啓発リーフレット)を市内の保育園、幼稚園、小中学校へ配布した。	〇6月の食育月間における啓発 ・広報上越6月号に食育月間啓発記事を掲載した。 ・市役所玄関ロビーに食育月間啓発用のぼり旗を掲出した。 ・FM上越を通じ、朝ごはんの摂取、栄養バランスに配慮した食事、野菜の 摂取、日本型食生活の推進について啓発した。 ・食育推進に関する啓発物を市内の保育園、幼稚園、小中学校へ配布し
今後の課題 ・ 反省点		・引き続き、6月の食育月間、毎月19日の食育の日を中心に、保育園、幼稚園、学校、地域へ食育情報を発信し、全市民運動として食育の推進に取り組む。

事業No.及び事業名	(3)-③-④ 地域での共食についての情報提供
事業担当課	農政課
取組の概要	地域等で子どもから高齢者まで様々な人たちと食事をする機会を増やすため、地域での共食についての 情報を提供する。

#### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(車業計画)	市ホームページにおいて、地域で行われ (事業計画) ている共食の情報が 分かるよう掲載す る。				
(事業計画)					
(目標)	地域等で共食したい と思う人が共食する 割合を70%以上にす る。	地域等で共食したい と思う人が共食する 割合を71%以上にす る。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を72%以上にする。	地域等で共食した いと思う人が共食 する割合を73%以 上にする。	地域等で共食した いと思う人が共食 する割合を75%以 上にする。

★取組状况		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	×(計画された事業を行わなかった)
主な事業実績	・地域支え合い事業(高齢者支援課)の情報を 市ホームページに掲載した。 (高齢者の憩い及び交流の場として地域支え合い事業を実施していおり、13区の一部の会場では昼食を提供し、共食となっている。) ・地域等で共食したいと思う人が共食する割合食育市民アンケート結果:70.0% (前年度比:4.3ポイント増)	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、積極的な周知を行わなかった。 ※食育市民アンケートの実施を2年に1度とし、令和2年度は実施年度でなかったことから、目標に対する評価測定は不可(目標達成状況の評価はなし)。
今後の課題 ・ 反省点	・食育市民アンケート結果から、目標を達成することができなかった。 ・引き続き、市が行う地域での共食の場の情報や、地域等での共食のメリット等を市ホームページを通じ発信していく。	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域で共食することが難 しい状況にある。孤食を防ぐためにも、今後どのように地域での共 食を推進していくか検討が必要である。

事業No.及び事業名	(4)-① 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施
事業担当課	社会教育課
取組の概要	地域資源の活用や地域住民のニーズの精査を行いながら、地区公民館において料理教室や食をテーマと する体験講座を実施する。 社会教育事業で実施する食に関する講座の紹介を通じて郷土料理や食文化の周知を行う。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区公民館で、郷土 (事業計画) 料理や食文化をテーマとする講座を実施する。	地区公民館で、郷土料理や食文化をテー				
	郷土料理や食文化に ついて理解を深め、 その継承や実践につ				
(目標)	いて興味・関心を 持った参加者の割合 を80%以上とする。				

#### ★取組仕湯

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	Δ (計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	金谷地区公民館 ・伝統保存食づくり 3回 ハ千浦地区公民館 ・上越野菜で料理教室 3回 大島地区公との郷土料理講座 1回 ・ふる公との郷土料理講座 1回 ・赤い区公民館黒川分館 ・きのこ学習会 1回 郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合 講座アンケート結果:95.5% また、11月30日に開催された「上越市食育実践セミナー」において、地域の食文化の継承として「親子郷土料理教室」を開催した。アンケート結果:100%(事業満足度)	【実施】 柿崎地区公民館黒川分館 ・きのこ学習会 1回 三和地区公民館 ・知っ得!日本酒講座 3回 【中止】 金谷地区、八千浦地区及び大島地区公民館の各講座 郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合 講座アンケート結果:71.5%
今後の課題 ・ 反省点	・今年度の公民館講座の開催は成人対象のみとなったので、青少年・親子を対象とした食育に関する講座を実施したい。 ・「発酵のまち上越」を推進する内容の講座を実施したい。	・令和2年度の公民館講座における調理実習や会食を伴う体験活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部を除き中止した。実施した2講座は、感染症対策に十分配慮した内容としたが、十分な体験活動ができなかったためか、参加者の興味・関心の高まりは幾分低い結果となった。・令和3年度における同講座の実施の際は、引き続き感染症対策に配慮した上で、充実した学習内容を提供していきたい。

事業No.及び事業名	(4) -① 謙信KIDSプロジェクト
事業担当課	社会教育課
取組の概要	小学生にふるさと上越の魅力ある食材を紹介し、郷土料理に関する体験をさせることを通して、学ぶ意 欲やふるさとを愛する心を育成する。

# ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
謙信KIDSプロジェクトの23講座28コース のうち、上越の食を テーマにした講座を3 講座実施する。	トの23講座28コース				
上越の食について、	講座のテーマである 上越の食について、 興味・関心を深めた				
(口保)	参加者の割合を90%以上とする。				

★取組状况		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	んぴつなす、枝豆等)の生育観察、収穫作業を行った。3回目は収穫した上越野菜を使って調理実習を行った。延べ52人が参加した。  ・「食」の講座(小学4~6年対象)は3回実施し、上越の食文化「発酵」について学んだ。1回目はみそ作りを体験し、発酵のおもしろ知識を学んだ。2回目は「あま酒」の発酵の秘密を探る、あま酒を使った調理実習を行った。3回目はできあがった「みそ」を使って調理実習を行った。延べ56人が参加した。  ・講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合講座アンケート結果:97%	のおもしろ知識を学び、みそまる作りを体験した。2回目は、「しょうゆ」の作り方や種類を学んだほか、数種類のしょうゆの試食を行い、味の違いを体験した。延べ29人が参加した。 ・講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 講座アンケート結果:100%
今後の課題 ・ 反省点	・「しょく」、「食」の講座で取り扱っているのは上越市が力を入れて取り組んでいる食物であり、継続して取り組む。調理実習を伴うので衛生面、安全面に配慮する必要がある。 ・現在、夏期に屋外で行っている活動は熱中症になる恐れがあるため、時期や場所の変更など、講座内容の見直しが必要である。	・新型コロナウイルス感染対策のため、回数・定員を減らすとともに、例年実施していた調理実習を行わなかった。今後は新型コロナウイルス感染対策を徹底し、参加者の安全・安心に配慮しながら、調理実習などの実体験を伴った講座実施に取り組んでいく。 ・「しょく」、「食」の講座で扱っている食材は、上越市が生産や普及に力を入れている食材であり、講座を通じて郷土への愛着の育成にもつながると考えられることから、継続して取り組んでいく。

事業No.及び事業名	(4) -① 「発酵のまち上越」の啓発活動
事業担当課	上越ものづくり振興センター
取組の概要	「発酵のまち上越」を情報発信するとともに、古くから根付き受け継がれてきた発酵食品文化を次世代 へ継承する。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ホームペント第四	上越の発酵食品を ホームページやイベ ント等で市内外に広				
(事業計画)		く発信するととも に、発酵食品文化を 次世代へ継承する。			
(目標)	上越は「発酵のま ち」というイメージ				
(口1示/		を持つ市民を増加させる。			

★拟拙认沈		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	△(計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	〇上越発酵食品研究会の事務局を担うなど、各種の発酵関連事業を実施した。 ・ホームページ等で「発酵のまち上越」をPRした。 ・第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国	・SNSで「発酵のまち上越」をPRした。 ・謙信KIDSプロジェクト「食」の講座において、小学生向けに味噌の味比べやみそまるづくり体験など発酵食品に関するワークショップを行った。 ・新潟県と連携し、「雪国の発酵食文化発信事業交流イベント『新潟、発酵中。』」にて上越の発酵食品のPRを行った。 ・県内の中学校の修学旅行を受け入れ、「発酵のまち上越」の説明及び酒蔵と味噌蔵の見学を行った。
今後の課題 ・ 反省点	「発酵のまち上越」というイメージが浸透しつつ あるが、今後も継続した P R 活動が必要。	・新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントや会議が中止となり例年と比べるとPRを行う機会が少なかった。 ・新潟県や県内他自治体も発酵食品関連の事業を推進し始めているため、当市も引き続きPR活動を行うとともに、連携することで市外への発信力を強めていきたい。

事業No.及び事業名	(4)-② 地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進
事業担当課	教育総務課
取組の概要	給食の献立において、地場の食品、郷土料理等を取り入れるなど、「食」について考える取組みを推進する。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
毎月、地場の食品や郷					
(争未計画)	(事業計画) 土料理を取り入れた学 校給食を提供する。				
郷土料理や地場の食品 を取り入れた学校給食					
(目標)	を通じて、「食」に対 する児童生徒の関心を 高める。				

★取組状况		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	ラリンピックを応援しよりの食品や郷土料理を立立の日の取組と、地場の食品や郷土料理を立立が存し、市内の全公立が存く(72校)で学校(72校)で学校(4月~11月までをパート1として「第34回国民文化祭にいがた大会」の開催7地域などで学校の12月~3月まではパート2として、2020年東京ストタンピック・パラリンピックは大きではパート2として、2020年東京ストタンピック・パラリンピックは対したが表し、高の食材や郷土料理を取り入れたふるさと献立の一例・めずすのつみれ汁、めぎすのフライ甘酒、からみかけ、さらのの苦がからがけからかけ、さけの発酵焼き、さまがチチ快きでは、おぼろれ、おり場が、スキー汁、アスパラ菜の三色和え、スキー汁、アスパラ菜の三色和え、カース・さがの揚げ煮、春・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・新潟の郷土料理夏野菜を使用した「夏のつぺい汁」 ・上越地域に伝わる保存食を使用した「さけのぴりから焼き」 「うちまめのみそ汁」 ・上越野菜を使用した「いとうりと野菜のうまから炒め」 ・発酵食品と旬の野菜を使用した「めちゃうまさつま汁」 ・上越市、糸魚川市、炒高市の特色を食で表現した 「さめのごまケチャップソースかけ」(上越市:さめ) 「石のまちサラダ」(糸魚川市:ひすい海岸をイメージ) 「塩こうじの和風スープ」(妙高市:かんずり使用) ・上越の味をたっぷり使用した「上越雑煮」「さけのおにごしょうふうみ」
今後の課題 ・ 反省点		・「ふるさと献立」に郷土料理を取り入れた学校給食の実施と地場 産の食材による給食提供を引き続き行い、「食」について考える取 組を推進する。

事業№.及び事業名	(4)-③ 地産地消推進の店認定事業
事業担当課	農政課
取組の概要	飲食店や小売店に地域食材を積極的に活用するよう働きかけるとともに、一定基準以上の地域食材を 積極的に活用する店舗に対して認証を行う。

#### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
認定事業の周知とと (事業計画) もに加入促進を図					
.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	る。				
(目標)	認定店数を155軒以 上にする。	認定店数を160軒以 上にする。	認定店数を165軒以 上にする。	認定店数を170軒以 上にする。	

★取租状况				
	令和元年度	令和2年度		
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)		
主な事業実績	野菜」を使用した料理や商品を対象商品とした「地産地消推進キャンペーン」を8月の1ヶ月間実施し、地産地消の推進と認定店の周知及び利用促進を図った試みとしてスタップライに、多ンプライを側にした。(参加・方式で実施がより、132店舗、キャンペーン応募がで実施がより、132店舗、キャンペーン応募件数:283件)・市民や観光客がどこでも簡単に推進店の店が、15を収集できるよう、「地産としま。QRコイド」を電子データ化するととに誘導する仕組みとした。	・地産地消の推進と地産地消推進の店の利用促進を目的に「地産地消推進キャンペーン」を8月から10月の2か月間実施した。(参加店舗数:40店舗 キャンペーン応募件数:1,456件)・地産地消推進の店の周知として、市ホームページに「地産地消推進の店ガイド」を掲載したほか、交通政策課と連携し12月から令和3年1月までの2か月間、タクシーの車体、鉄道、バスの車内に地産地消推進の店の広告を掲出した。		
今後の課題 ・ 反省点	・地域食材を使用している店舗に働きかけたことで、目標を達成することができた。引き続き、市内の小売店及び飲食店等に地産地消の理解を深めてもらい、認定店数の増加を図る。			

事業№.及び事業名	(5)-① 食育推進関連団体との連携強化
事業担当課	農政課・関係課
取組の概要	食育推進関連団体と情報交換や交流を行い連携を強化するとともに、団体間の連携を推進する。

#### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	食育推進関連団体に よる活動を推進し、 食育活動の情報収集				
( ) Political	並びに情報提供を行う。				
/ <del>D /==</del> \		食育推進ネットワー			
(目標)		クの会員数を80団体 以上とする。	グの芸員数を90団体 以上とする。	連携し、良育推進争 業を実施する。	

スペルエンベン		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	会(上越食育推進協議会)」が4月に解散したため、活動の側面支援、連携が図れなかった。 ※食育推進ネットワークの解散により、会員数の測定は不可。	・料理レシピサイト「クックパッド」のレシピ掲載について、NPO 法人食の工房ネットワークと連携しサイトを運営した。地域の食に 関する専門性を活かし、調理工程やポイントなどを掲載し、分かり やすい内容とすることができた。
今後の課題 ・ 反省点	が解散したことから、今後は市内の食育に関	・上越の食を育む会の解散以降、市内の食育推進関連団体との連携が難しい状況にあることから、食育実践セミナー以外でも連携できる仕組みづくりが必要である。

事業No.及び事業名	(5)-② 健康づくり推進協議会の開催
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	医療機関や関係機関と連携し、健康や医療の最新の状況について情報交換、意識の共有を図り、食育 推進施策にいかす。

#### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	健康づくり推進協議				
(事業計画)	) 会を年2回開催す る。				
	医療機関や大学等との情報交換から得た				
	(目標) の情報交換から得た 知見を、食育関係施 策に活用する。				

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	の健康課題や健康づくり活動等から得られた 食生活を含む生活習慣の実態、医療費分析等 について、医療機関や大学等関係機関と情報 の共有及び今後の活動の方向性について協議 を行った。	・健康づくり推進協議会を年2回開催し、市の健康課題や健康づくり活動等から得られた食生活を含む生活習慣の実態、医療費分析等について、医療機関や大学等関係機関と情報の共有及び今後の活動の方向性について協議を行った。 ・平成30年3月に策定した「上越市健康増進計画改定版」を今後も健康づくりの指針として、食育推進施策に活用していく。
今後の課題 ・ 反省点	関と市の健康実態や医療の状況について情報	・今後も引き続き、医療機関や大学等関係機関と市の健康実態や医療の状況について情報交換、意識の共有を図り、その中から得た知見を食育関係施策においても活用できるよう開催していく必要がある。

事業No.及び事業名	(6)-① 食育に関する積極的な情報提供
事業担当課	農政課・関係課
取組の概要	ホームページ「上越の食育」や広報上越、メディア等を活用し、市内で行われている食育活動や食育イベント、 食育に関する啓発事項等を積極的にPRする。また推進計画概要版の作成・配布などにより食育の普及、啓発に努め るとともに共通理解の促進を図る。

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市のホームページへ食育情報の定期的な掲載を行うとともに、推進計画概要版を事業等で配布する。				
(目標)	市民が食育に関する必要な情報を得られる状態に する。				

★取組状況			_
	令和元年度	令和2年度	٦
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)	
主な事業実績	○もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記の配信 今年度新たな取組として、上越市食育推進キャラクター「もぐもぐジョッピー」が市内の食育情報や食育に関する話などを日記にし、市ホームページ「上越市公司、内の上越市公司、一ジを通じて市民に伝えた。 ○市ホームページ「上越の食育」への掲載・もくがでジョッピーの食育気まぐれ日記(月1回)・上越市地産地消推進の店ガイド・食育推進事情報・小中学校給食での食育活動紹介(年4回) ○料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式・1000円では、1000	○もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記の配信 上越市食育推進キャラクター「もぐもぐジョッピー」が、市内 の食育情報や食育に関する話などを日記にし、市ホームページ 「上越の食育」と料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市 公式ページを通じて市民に伝えた。 ○市ホームページ「上越の食育」における情報提供 ・上越市地産地消推進の店ガイド ・食育推進事業情報 ・小中学校含食献立表、給食だより(月1回) ・市立保育園での食育活動紹介(年4回) ○料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページにおける情報提供 ・旬の地域食材を使用した料理や郷土料理のレシピ ○第3次上越市食育推進計画概要版の配布 ・6月の食育月間に市内保育園、幼稚園、小中学校に配布	ī
今後の課題 ・ 反省点	・市民への食育の浸透は、周知・啓発が重要と考えることから、市ホームページ「上越の食育」や料理レシピサイト「クックパッド」を活用し、広い世代に向けた情報発信を行う。 ・今年度も第3次上越市食育推進計画概要版については、イベント時等の配布に留まった。今後は、市事業のほか、連携する団体等の事業などあらゆる機会を捉え、啓発に使用するよう取組む。	・様々な食育情報が得られるよう、引き続き市ホームページ「上越の食育」や料理レシピサイト「クックパッド」を活用し、食育情報を発信する。 ・第3次上越市食育推進計画概要版は、6月の食育月間に市内の保育園、幼稚園、小中学校に配布したのみで、他の事業で活用することができなかったことから、多くの市民や団体が活用できる方法を検討する必要がある。	

事業No.及び事業名	(6)-① 給食だよりの発行による情報提供	
事業担当課	教育総務課	
取組の概要	毎月、給食だよりを発行し、給食の献立のレシピや旬の食材、地域の食材の紹介などを通して「食」 への関心や知識を高める。	

### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
( <del>+                                   </del>	毎月、給食だよりを 作成し、保護者へ提 (事業計画) 供するとともに、 ホームページへの掲 載を行う。				
(尹未前四 <i>)</i>					
	学校でどのような給 食が提供されている か等について保護者				
(目標)	をはじめとした市民 が知れる状態にす る。				

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績		・市ホームページへ給食だよりの掲載を行った。 ・児童生徒13,541人の保護者並びに、広く市民へ情報を提供することができた。
今後の課題 ・ 反省点	給食情報」の発信を行っていく。	・今後も継続して給食だよりを通じた「学校給食情報」の発信を行っていく。 ・市ホームページ「上越の食育」で給食だよりの掲載を行っていく。

事業№.及び事業名	(6)-② 食育フォーラムの開催
事業担当課	農政課・関係課
取組の概要	食育フォーラムなどを継続的に開催することで、食育活動に対する市民の理解促進を図るほか、食育推進団体同士の情報交換や連携に役立てる。

### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	日頃の食育活動の発表 の場として食育フォー				
	来場者数を1,500人以上 にする。				

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	×(計画された事業を行わなかった)
主な事業実績	○事業名:食育元年11月30日(土) ○開催日:令市田城山公園オーレンプラザ ○会・1月30日(土) ○会・1月30日(土) ○会・1月30日(土) ○会・1月30日(土) ○内・20日(中央・1月30日(土) ○内・20日(中央・1月30日(土) ○内・20日(中央・1月30日(上) ○内・20日(中央・1月30日(上) ○内・20日(中央・1月30日(上) ○内・20日(中央・1月30日(上) ○内・20日(中央・1月30日(上) ○内・20日(中央・1月30日(上) ○内・20日(中央・1月30日(上) ○中のまさい方のは、イク・クック体験・おおい方ののは、イク・・おおい方ののは、イク・・のののは、イク・・のののは、イののは、イク・・・のののは、イク・・・・ののでは、イク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・食育実践セミナーは、飲食を伴う食体験が中心であることから、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。 ・食育実践セミナーの代わりとなるパネル展示等による啓発事業を計画したが、実施機会が得られなかった。
今後の課題 ・ 反省点	・これまで食育の周知を目的に行ってきた「食育フォーラム」から、食育講演会や体験を通じて食育実践の環を広げることを目的とした「食育実践セミナー」へ移行し、会場を変更して実施した。 ・食育講演会は、世代を超えて食の楽しさを実感できる内容であったが、現在、食育を浸透させることに注力している若い世代や子育て世代の参加してもらえる仕掛けづくりが必要である。 ・食育体験や展示については、今年度の課題を踏まえ、市民が食に関心を持ち、家庭等での実践に結び付く内容を実施していく。	・食育実践セミナーの実施については、新しい生活様式に沿った新型コロ ナウイルス感染症対策を講じた内容を検討する必要がある。

事業No.及び事業名	(7)-① 食の安全に関する情報発信
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	食の安全に関する国・県からの情報や健康被害情報、新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査結果などを市のホームページや広報誌を活用して情報提供していく。

### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(古 ** -1 云 \	食の安全に関する情報等を市のホーム (事業計画) ページや広報誌など 様々な媒体を使い広 く情報提供する。				
(尹太可四)					
(目標)	市民が容易に食の安 全に関する情報を入				
(口保)	手できるようにす る。				

スカスが正ってから			
	令和元年度	令和2年度	
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)	
主な事業実績		・市ホームページや広報上越等、様々な媒体を通じて、食中毒の予防等「食の安全」に関する情報提供を行った。	
今後の課題 ・ 反省点	・今後も継続して、適切な時期に適切な情報 提供を行い、市民の食に関する不安の解消に 努める必要がある。	・今後も継続して、適切な時期に適切な情報提供を行い、市民の食に関する不安の解消に努める必要がある。	

事業No.及び事業名	(7)-② 農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施	
事業担当課	農村振興課	
取組の概要	安全で安心な農林水産物を自ら選択できる市民の育成を図るため、研修や啓発を行う。	

## ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(東衆弘憲) 実施し	食品表示の研修会を 実施し、食品表示の				
	内容を広く周知する。				
(目標)	食品表示について正 しい知識を持った市				
	民を増やす。				

東 4×11年1人ル			
	令和元年度	令和2年度	
目標達成状況	0	×(計画された事業を行わなかった)	
主な事業実績	などを展示し、市民の意識啓発を図った。 【開催日】 令和元年11月30日(土) 【会場】 高田城址公園オーレンプラザ	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、食育実践セミナーを中止したため、食品表示に関して広く市民へ周知する機会とすることができなかった。	
今後の課題 ・ 反省点		・引き続き、食品表示について市民へ正しい知識を周知する必要があるため、今後は食育啓発事業以外でも、食品表示に関する情報発信方法の検討に努める。	

事業No.及び事業名	(7)-③ 農林水産物等の放射性物質検査の情報発信
事業担当課	農村振興課・農林水産整備課
取組の概要	消費者の信頼に応えるため、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果を市民に情報 提供する。

## ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画) 及で	必要に応じ、広報 及びホームページ				
	で検査結果を周知する。				
(目標)	情報発信により農 林水産物等に関す				
	る不安を解消させる。				

	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	性物質調査において、放射性物質が検出され た場合のみ、県から情報提供があり庁内関係	<ul> <li>○新潟県から得た放射性物質の検出結果(1件)について、庁内の関係各課へ情報提供を行った。</li> <li>○検出結果及び対応         <ul> <li>・検査日:11月19日</li> <li>・品 目:原木しいたけ</li> <li>・検出された放射性物質:放射性セシウム 4.16ベクレル/kg</li></ul></li></ul>
今後の課題 ・ 反省点	・県基準値以上の放射性物質が検出された場合は市のホームページなどで市民に広く情報提供を行い、不安解消に努めていく。	・庁内関係課へ情報提供を速やかに行うことができた。 ・今後、規格基準以上の放射性物質が検出された場合は、市のホームページなどで市民に情報提供を行い、不安解消に努めていく。

事業№.及び事業名	(8)-① 地域食材による給食の提供	
事業担当課	教育総務課	
取組の概要	関係団体、生産者等と連携し、学校給食への地場産食材の利用促進を図る。	

### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(東衆社画) の連携を強化し、	関係団体、生産者等との連携を強化し、地場				
	産食材の利用を促進す る。				
地場産使用型せる。	地場産使用率を向上さ				
	د م ،				,
(目標)	使用率16%以上	使用率17%以上	使用率18%以上	使用率19%以上	使用率20%以上

X 4X1111/7/00	<b>人</b> 和二左曲	<b>公和</b> 0年度
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	Δ	△(計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	ともに、生産者等からの出荷時期を確認し献立に反 映させた。	・新型コロナウイルス感染症の影響で、関係団体・生産者との打合 せ会は開催できなかったが、学校給食における地場産野菜につい
今後の課題 ・ 反省点	連携を図る中で確立されてきているが、今後も学校 給食に地場産野菜の利用が図れるよう生産・納入体 制を継続して協議していく必要がある。 ・積極的に地域の生産者と情報共有を図っていく。	・地場産野菜の納入体制は関係団体、生産者等との連携を図る中で確立されてきているが、今後も学校給食に地場産野菜の利用が図れるよう生産・納入体制を継続して協議していく必要がある。 ・積極的に地域の生産者と情報共有を図っていく。 ・地場産野菜の生産量・品質が気象条件等に左右される中、地場産野菜を安定して提供してもらえるよう関係団体、生産者等に協力をお願いしていく。

事業No.及び事業名	(8)-① 学校給食用野菜産地の育成	
事業担当課	農政課	
取組の概要	関係団体、生産者と連携し、学校給食用野菜の供給体制の確立を図る。	

### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産拡大を支持 ともに、生 (事業計画) 係団体と連	学校給食用野菜の生 産拡大を支援すると ともに、生産者、関				
	係団体と連携した生 産供給体制を強化す る。				
(目標)	地場産野菜の使用率				
	を向上させる。				

★取組状況		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	△(計画された事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	て位置づけていた区における地場産野菜の使用を推進するため、令和元年6月に市(教育総務課、農政課)と重点4地区の学校栄養	・教育総務課が青果物の年間必要量や出荷時期を関係団体・生産者に確認し生産協力を依頼することで献立に反映させた。 ・地場産野菜使用率の減少の要因としては、学校給食として出荷可能な地場産野菜の品目は少量ではあるものの、コロナ禍での休校により給食で使用することができなかった品目や、生育不良により出荷できない品目があったことが考えられる。  〇全体の野菜使用量に対しての地場産野菜使用率 13.3%
今後の課題 ・ 反省点		・気象条件により野菜の品質や供給量が大きく左右されるため、安定的な品質や供給量を確保するよう、指導機関が生産者に対して技術的な支援を強化する必要がある。 ・コロナ禍によって生産意欲の減退も懸念されることから、生産者が「地場産野菜を次代を担う子どもたちに供給している」というプレゼンスを向上する必要がある。

事業No.及び事業名	(8)-② 直売所情報の発信	
事業担当課	農村振興課	
取組の概要	地産地消の拠点施設である直売所の情報について広く市民にお知らせし、地産地消の推進を図る。	

## ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
農産物直見 (事業計画) 新聞等によ を行う。	農産物直売所マップや 新聞等により情報発信				
	市内農産物直売所の販				
(目標)	売額を増加させる。				

<b>₹ 4X \\</b> □1\\ \\\\\				
	令和元年度	令和2年度		
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)		
主な事業実績	・地元新聞に直売所のイベント情報等を掲載し、市 民等への周知を行った(年3回)ほか、食育実践セ ミナー等のイベントで農産物直売所マップを配布 し、誘客強化を図った。	・直売所連絡協議会員の各直売所を訪れる消費者の傾向・要望等を調査し、調査結果をもとに売り場づくりや集客方法の見直しを行うなど、集客力や売上増加に向けた運営強化の一助とした。 【アンケート調査時期、対象直売所】 7月、11月…夏野菜・秋野菜を取り扱う直売所(14直売所)9月 …ぶどう・栗を主に取り扱う直売所(3直売所)【回答者数】881人 ・地元新聞に直売所のイベント等の情報掲載を依頼し、市民への周知を行った(年3回)。 ・農産物直売所マップの作成から6年が経過し、情報の更新が必要なことから、新たにマップを作成し、周知を図った。		
今後の課題 ・ 反省点	・引き続き地元新聞を活用し、農産物直売所に関する情報発信に努め、各農産物直売所の一層の販売強化を促進する。	・引き続き、農産物直売所に関する情報発信に努め、各農産物直売所の 一層の販売強化を促進する。		

事業No.及び事業名	(9)一① 園芸振興事業
事業担当課	農政課
取組の概要	地場産野菜の普及のため、関係団体、農業者と連携し、園芸作物の作付拡大、品質向上を図る。

## ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	園芸作物の生産拡大 (事業計画) 等に係る経費の一部 を支援する。				
(爭未们四/					
(D.E.)	(目標) 地場産野菜の生産を 拡大させる。				
(日 <b>保</b> )					

★ 4X和1人/元			
	令和元年度	令和2年度	
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)	
主な事業実績	だまめ」及び水稲・えだまめ後作のブロッコ リー等の「秋冬野菜」の生産に係る初度的経 費の一部を支援した。	・県事業(新潟県農林水産業総合振興事業:園芸生産促進)を活用 し園芸パイプハウス1棟及び暖房設備の導入を支援することで、施 設園芸による周年栽培の取組拡大を図った。	
今後の課題 ・ 反省点	生産拡大の取組を推進し、農家の所得向上、体質強化を図る必要がある。 ・水田での取り組みとなるため、安定した収量や品質を確保するためには、ほ場の排水対		

事業№.及び事業名	(9)-② 農林漁業体験活動等の情報提供	
事業担当課	農村振興課	
取組の概要	市内で行われている農林漁業体験活動等の情報を市民が必要な時に容易に入手できるよう、情報提供 の体制を充実させる。	

## ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
幸	市ホームページや広 報上越等を通じ、農 林漁業体験活動につ				
(尹采町四)	M温泉体験活動に対いての情報を発信する。				
	市民が容易に農林漁 業体験に関する情報				
(目標)	を入手できるように する。				

	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績	・市ホームページ「上越の食育」では、『食育体験メニュー』として越後田舎体験推進協議会及びにいがたグリーン・ツーリズムの取組を紹介した。また、市内のNPO法人等が実施するイベント情報を提供した。	て越後田舎体験推進協議会及びにいがたグリーン・ツーリズムの取
今後の課題 ・ 反省点	・現在、市ホームページで紹介している団体 以外の情報も提供できるよう、情報収集を進 める。	・現在、市ホームページで紹介している団体以外の情報も提供できるよう、情報収集を進める。

事業No.及び事業名	(9)-③ 都市と農村の交流促進
事業担当課	農村振興課
取組の概要	こだわりを持った地域農産物の購入や市民農園等での農作業体験を楽しみとする都市住民に、食や農へ の認識を深める機会を広く提供し、都市と農村の交流活動を促進する。

## ★年度別計画

年	度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
けと農作業体験 流を実施すると もに、都市生協	市民農園の貸し付けと農作業体験交流を実施するとともに、都市生とはの					
	(争未計画) 組合員等による農 作業体験事業・交 流事業を実施す る。					
	都市との交流体験 人数を361人以上と					
<b>(口1</b> 赤 <i>)</i>	,	する。				

<b>★</b> 取組状況			
	令和元年度	令和2年度	
目標達成状況	Δ	Δ (計画された事業に取り組んだが成果が不十分)	
主な事業実績	・市内の3つの市民農園を契約している首都 圏居住者:19人 ・首都圏生協パルシステム東京の組合員が 当市を訪れ、田植えやや稲刈りといった農業 体験のほか、酒仕込みや笹蘇を行った。 た、上越市から講師が出向き、都内においてそば打ち体験や味噌づくり、棚田米の学習会を行い、産地と生協組合員との交流が図られた。 交流人数:294人 ・東京農工大学のファームステイによる民間交流。(交流人数:7人)	・市内の3つの市民農園を契約している首都圏居住者:18人 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止により、都市生協パルシステム東京の組合員が当市を訪れ、農業体験や地域の食に触れる体験を全て中止とした。 ・コロナ禍の中であっても、産地と生協組合員が繋がれる新たな交流として「オンライン交流会」を今年度初めて開催し、上越産品(酒、農産加工品等)のPRと販売促進を図ることができた。 交流人数:61組107人(生協パルシステム東京組合員)	
今後の課題 ・ 反省点	・都市との交流体験人数は322人で目標を達成できなかった。 ・要因としては、首都圏生協パルシステム東京との交流事業(東京開催)参加者の減、昨年度まで行われていた法政大学0Bと吉川区川谷地区との民間交流が行われなくなったことが挙げられる。 ・上越市の知名度向上とこだわりを持った農産物等をPRするためにも、魅力ある農林漁業体験を検討し、交流人口を増やす。	・都市との交流体験人数は126人で目標を達成できなかった。 ・要因としては、都市生協パルシステム東京との交流事業(上越市開催・東京開催)が新型コロナウイルス感染症の影響により、中止としたことによる参加者の減が挙げられる。 ・上越市の知名度向上と魅力ある農産物等をPRするため、新型コロナウイルス感染症に対応した新たな体験内容を検討し、交流人口増加に努める。	

事業№.及び事業名	(10)-① 多面的機能支払(生物多様性保全の推進)
事業担当課	農林水産整備課
取組の概要	多面的機能支払に取り組む地区において、生物多様性保全の推進に資する活動(生物の生息状況の把握、水田を活用した生息環境の提供等)を行うことにより、食料生産環境への理解の促進を図る。

## ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生物多様性保全の内(事業計画) 中の地域を開発しています。					
( ) > > ( )	************************************				
(目標)	取組組織数を41以上とする。	取組組織数を42以上 とする。	取組組織数を43以上とする。	取組組織数を44以上 とする。	取組組織数を45以上 とする。

	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
今後の課題 ・ 反省点	・次年度以降、目標の達成に向け、研修会や 実績確認の際の相談を通じ、当該活動の維持 及び新たな取組みを推進していく。	・次年度以降も目標の達成に向け、生態系保全関係資料を配布し、 活動組織に取組みを推進していく。

事業No.及び事業名	(10)-① 環境保全型農業直接支援対策
事業担当課	農政課
取組の概要	自然環境への負荷軽減や安全な農産物に対する消費者ニーズに応えるため、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を実践する農業者等を支援することにより、環境保全型農業にかかる技術の蓄積や地域への波及を目指す。

### ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	化学肥料及び化学合 成農薬の使用を5割以 上低ッで行取組と セットで化防止の 球温で行い止め 球温性保全動 多様性保全動及びも 農業に取り 機農等を支援する。				
(目標)	取組組織数及び面積 を拡大させる。 87組織 以上 1,410ha 以上	88組織 以上 1,420ha 以上		90組織 以上 1,460ha 以上	91組織 以上 1,473ha 以上

▼取組认沈							
	令和元年度	令和2年度					
目標達成状況	Δ	△ (計画された事業に取り組んだが成果が不十分)					
主な事業実績	○環境保全型農業直接支払交付金の交付対象面積は、当初見込んだ 1,231haから310ha減の921haとなった。 【面積減の主な理由】・カバークロップ 長雨によりほ場状態が悪く、カバークロップの種子を播種できず取りやめたため。 ・堆肥の散布機械の故障により散布が出来ず取りやめたため。 ・冬期湛水管理 干ばつ等により取水措置を講じることができず、取り止めたため。 ・国際水準GAPの実施負担が大きく取りやめたため。 ・5割低減栽培気象条件等により化学肥料の投入量が増え、5割低減栽培が行えず、取り止めたため。 ・○交付金対象の取組組織は、56組織となった。	<ul> <li>○環境保全型農業直接支払交付金の交付対象面積は、当初見込んだ2、375haから1、446ha減の929haとなった。</li> <li>【面積減の主な理由】</li> <li>・カバークロップ 長雨によりほ場状態が悪く、カバークロップの種子を播種できず取りやめたため。</li> <li>・不耕起播種、長期中干し、秋耕令和2年度からの新規メニューであり、多くの団体が取り組むものと想定されたが、実際には多くの団体が取り組まなかったため。</li> <li>・国際水準GAPの実施負担が大きく取りやめたため。</li> <li>・5割低減栽培気象条件等により化学肥料の投入量が増え、5割低減栽培が行えず、取り止めたため。</li> <li>○交付金対象の取組組織は、63組織となった。</li> </ul>					
今後の課題 ・ 反省点	毎年発生しており、このような状態が続くと、今後、取組の衰退が懸念される。	・令和2年度から新規メニューとなった不耕起播種、長期中干し、秋耕に ついては、既存の営農実態で行っていることから、農業者へのより一層					

事業№.及び事業名	(10)-② 桑取川魚の森づくり事業
事業担当課	農林水産整備課
取組の概要	上越地域の豊かな川や海の恵みを今後も引き続き享受し将来に伝えられるよう、良質な水環境の保全 を図る根元となる豊かな森林を守り育てる活動を行う。

## ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	年2回、下草刈り等 の森林保育活動を行				
(学来问四 <i>)</i>	の無体体育活動を行う。				
(目標)	参加団体を13団体以標) 上、参加人数を170 人以上にする。				

	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	0	〇(計画された事業に取り組み成果が挙がった)
主な事業実績		・関係団体から協力を得て、7月1日(水)と10月3日(土)の2回、下草刈りやつる切り、森の遊び場の整備(木材チップの敷き均し)など森林の保育活動を実施した。 ・10月3日の活動には、漁業関係者や地元町内会、協賛企業など15団体、146名の皆さんから参加していただいた。・2回の合計参加者数は185人。
今後の課題 ・ 反省点	・木の生育には相当な時間を要するため、引き続き関係者の協力を得ながら保育活動を実施していく必要がある。	・木の生育には相当な時間を要するため、引き続き関係者の協力を得ながら保育活動を実施していく。

事業No.及び事業名	(10)-③ 食品ロス削減に関する啓発活動
事業担当課	農政課
取組の概要	資源の有効活用や環境負荷の低減はもとより、食の大切さを再認識することにもつながるため、家庭 や外食時における食品ロスの削減方法を啓発する。

## ★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市ホームページやイ ベントにおいて食品 ロス現況や削減のた				
	めの方策を周知す る。				
(目標)	に何らかの行動して	食品ロス削減のために何らかの行動している人を74%以上にする。	に何らかの行動して	に何らかの行動して	に何らかの行動して

★取組状况		
	令和元年度	令和2年度
目標達成状況	©	ー(目標達成状況の評価なし)
主な事業実績	イクルと食品ロス削減を関連付けて周知した。 ・上越市食育実践セミナーにおいて、「食品ロス削減コーナー」を設け、食品の現状と削減に向けた家庭運動「食の宝庫上越 おいしく残さず食べ切ろう!20・10運動」をパ末ル展示で紹介したほうを行い、来場者がと調理例の紹介と試食を行い、来場者がの紹介と試食のない。 ・食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合食育市民アンケート結果:85.2%(前年度比:6.1ポイント増)	
今後の課題 ・ 反省点	り上げられていることもあり、市民の認知度	

## 令和2年度 上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理一覧表【確定値】

	13 / 14/	2年度 上越市食育推進美施計画(アクション)	/ / V / NEW	P P / E	
基本方針	No.	事業名	目標達 R1	成状況 R2	担当課
	(1)-(1)	母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)	( )	R2	健康づくり推進課
家庭	(1)-2	乳幼児期の食育推進	Δ	Δ	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
を 中	(1)-3	学校における食育の推進	0	0	学校教育課
心	(1)-4	思春期・青年期の食育の推進	0	0	健康づくり推進課・学校教育課・農政課
に 子	(1)-⑤	保健指導事業	0	Δ	健康づくり推進課
ども	(1)-6	保健指導事業	0	0	健康づくり推進課
の時	(1)-7	母子保健事業、保健指導事業	Δ	-	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
カュ	(1)-8	歯科保健事業の推進	Δ	-	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
ら 生	(1)-9	健康づくり支援店の拡大	Δ	Δ	健康づくり推進課
涯 に	(1)-10	身体機能維持支援事業	0	$\triangle$	健康づくり推進課
わ	(2)-①	保健指導事業	0	0	健康づくり推進課
たり	(2)-2	保健指導事業	Δ	Δ	健康づくり推進課
食 を	(2)-(3)	生活習慣病予防事業	Δ	_	健康づくり推進課
通 じ	(3)-(1)-(1)	家庭菜園での栽培体験等の推進	Δ	_	農政課·関係課
た	(3)-(1)-(2)	食に関するイベント等の実施	0	0	農政課·関係課
心 身	(3)-(1)-(3)	食生活の改善に必要な情報提供	0	0	農政課·関係課
の 健	(3)-(1)-(4)	家族での共食についての啓発活動	Δ	_	農政課
康	(3)-2)-1)	保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動	0	0	学校教育課·保育課
づく	(3)-2)-2	家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	0	0	学校教育課
り を	(3)-2-3	特色ある食に関する教育活動の推進	0	0	学校教育課
推	(3)-(3)-(1)	保健指導事業、食生活改善事業	Δ	_	健康づくり推進課
進 し	(3)-(3)-(2)	日本型食生活の普及活動	Δ	=	農政課·関係課
ます	(3)-(3)-(3)	国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動	Δ	=	農政課·関係課
→ n A	(3)-(3)-(4)	地域での共食についての情報提供	Δ	×	農政課
承り食し地育	(4)-①	郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	0	Δ	社会教育課
ま域活	(4)-①	謙信KIDSプロジェクト	0	0	社会教育課
食の 文推	(4)-①	「発酵のまち上越」の啓発活動	0	Δ	上越ものづくり振興センター
化進 をに	(4)-2	地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	0	0	教育総務課
継よ	(4)-③	地産地消推進の店認定事業	0	0	農政課
ま有食	(5)-①	食育推進関連団体との連携強化	Δ	0	農政課·関係課
すで育き推	(5)-2	健康づくり推進協議会の開催	0	0	健康づくり推進課
る進 環体	(6)-①	食育に関する積極的な情報提供	0	0	農政課·関係課
境制 づの	(6)-①	給食だよりの発行による情報提供	0	0	教育総務課
く整	(6)-2	食育フォーラムの開催	Δ	×	農政課·関係課
り備 をと	(7)-①	食の安全に関する情報発信	0	0	健康づくり推進課
推情 進報	(7)-2	農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施	0	×	農村振興課
し共	(7)-③	農林水産物等の放射性物質検査の情報発信	0	0	農村振興課·農林水産整備課
業食 へ育	(8)-①	地域食材による給食の提供	Δ	Δ	教育総務課
の活 理動	(8)-①	学校給食用野菜産地の育成	0	Δ	農政課
解の	(8)-2	直売所情報の発信	0	0	農村振興課
を推 促進	(9)-①	園芸振興事業	0	0	農政課
進に しよ	(9)-2	農林漁業体験活動等の情報提供	0	0	農村振興課
まり	(9)-③	都市と農村の交流促進	Δ	Δ	農村振興課
す上 越	(10)-①	多面的機能支払(生物多様性保全の推進)	0	0	農林水産整備課
の 農	(10)-①	環境保全型農業直接支援対策	Δ	Δ	農政課
林	(10)-2	桑取川魚の森づくり事業	0	0	農林水産整備課
漁	(10)-③	食品ロス削減に関する啓発活動	0	_	農政課

## 総括表

達成状況	事	事業数			
连风机机	R1	R2			
◎・・・計画した以上に成果が挙がった	1	0			
○・・・計画された事業に取り組み成果が挙がった	29	24			
△・・・計画された事業に取り組んだが成果が不十分だった	17	11			
×・・・計画された事業を行わなかった	0	3			
-・・・・目標に対する評価測定不可	0	9			

### 【基本方針1】家庭を中心に子どもの時から生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します

		フにり氏を通じた心身の健康 とくりを拒延しよう						_		
	指標項目		策定時 (H28)	H29	Н30	R1	R2	目標値 (R3)	県 最新値→ 目標値 (R6)	国 最新値→ 目標値 (R7)
		小学生	3. 3%	2.5%	4. 2%	3. 4%	-	0%	3. 3%→ 0%	4.6%
1	朝食を欠食する市民の割合(全く食 べない+あまり食べない)	中学生	5. 0%	4. 3%	6. 2%	5. 2%	-	0%	2. 1%→ 0%	→0%
		若い世代 (20~39 歳)	12.3%	7. 4%	15. 2%	13. 3%	_	6%	19.8%→ 15%	21.5%→ 15%以下
		3歳	87. 4%	89. 8%	92.6%	92. 2%	92. 2%	90%	90. 4%→ 95%	
2	虫歯のない児童・生徒の割合	12歳	84. 7%	85. 5%	88.6%	88. 9%	88. 9%	86%	84. 4%→ 90%	
		17歳	63. 1%	65.0%	73. 3%	71.3%	71.3%	65%	_	_
3	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合			70. 2%	43.3%	43. 4%	ı	70%	_	47.3%→ 55%以上
4	健康づくり支援店数		222軒	254軒	249軒	227軒	195軒	236軒	_	
	適正体重を維持している市民の割合	20歳代~60歳代の男性	72. 9%	72.0%	70. 9%	70. 3%	69. 3%	75%	_	_
J	週上 中里を推りしている市民の間日	20歳代~60歳代の女性	83. 3%	81.8%	82. 2%	82. 1%	80.6%	85%	_	_
6	生活習慣病の予防や改善のために、 維持や減塩等に気をつけた食生活を多		61.5%	56. 5%	55. 5%	55. 0%	-	72%	_	64.3%→ 75%以上
7	朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たり の回数		平均10回	平均10回	平均9回	9回	ı	平均11回	_	週9.6回→ 週11回以上
8	普段の食生活の中で食べることを楽しんでいる市民の割合		81.5%	84. 5%	84. 2%	84. 1%	ı	90%	_	
a	主食・主菜・副菜を組み合わせた食 事を1日2回以上ほぼ毎日食べている	全世代	34.6%	36.6%	38. 0%	40. 7%	ı	80%	44.6%→ 80%	36.4%→ 50%以上
9	市民の割合	若い世代 (20~39 歳)	31.1%	31.6%	31. 2%	34. 1%	ı	55%	32. 2%→ 55%	27.4%→ 40%以上
10	地域等で共食したいと思う人が共食で	ナる割合	68. 9%	69. 1%	65. 7%	70.0%	-	75%	_	70.7%→ 75%以上

### 【基本方針2】食育活動の推進により地域の食文化を継承します

	「フリー」								
ſ		策定時	今中中				目標値	県	国
	指標項目		H29	H30	R1	R2	(R3)	最新値→ 目標値(R6)	最新値→ 目標値(R7)
Ī	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	40.8%	69. 4%	71.0%	71. 9%	_	50. 0%	_	50.4%→ 55%以上
ſ	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代(20歳~39歳)の市民の割合	46. 3%	43. 3%	50. 7%	41.8%	-	60.0%	_	-
ſ	地域食材を積極的に活用する飲食店 (地産地消推進の店) の認証店数	151軒	156軒	162軒	167軒	170軒	170軒	_	_

### 【基本方針3】食育推進体制の整備と情報を共有できる環境づくりを推進します

	いつうりつ。及らはたけらの生物では大きべいっても未分して、とはたらの、									
	指標項目		策定時 (H28)	H29	Н30	R1	R2	目標値 (R3)	県 最新値→ 目標値 (R6)	国 最新値→ 目標値 (R7)
1	食育推進ネットワーク(登録)会員数	效	64	65	65		解散により 測定不可	100	ı	ı
2	保護者や生産者と一緒に食に関する学習会等を実施してい る小学校の割合		全小学校	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校	-	-
3	食育に関心を持っている市民の割合		72. 1%	74.4%	75. 9%	76. 9%	-	90. 0%	55.6% →90%	83.2%→ 90%以上
1	食品の安全性について基礎的な知識 を持ち、自ら判断する市民の割合	全世代	66.8%	54.7%	52. 2%	50. 5%	-	90.0%	_	75.2%→ 80%以上
4	を持ち、自ら判断する市民の割合	若い世代 (20~39 歳)	48.4%	42. 7%	45. 4%	42.5%	_	70. 0%	_	_

### 【基本方針4】食育活動の推進により上越の農林漁業への理解を促進します

	平刀町 T 2 2 日 石刻の正ににより工機の法外派末、V 4 所とに建しよう								
	指標項目	策定時 (H28)	H29	Н30	R1	R2	目標値 (R3)	県 最新値→ 目標値 (R6)	国 最新値→ 目標値 (R7)
1	学校給食で地場産物 (青果物) を使用する割合		12.3%	14.0%	17. 6%	13.3%	20%	-	-
2	野菜や米づくりなどの農業体験を行っている小学校の数	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校	-	_
3	環境保全型農業に積極的に取り組む組織数及び取組面積	82組織 1, 157ha	82組織 1,063ha	64組織 931ha	56組織 921ha	63組織 929ha	91組織 1, 473ha	-	-
4	学校給食における食べ残しの割合	1. 50%	1. 27%	1. 39%	1. 34%	1. 53%	1. 50%	-	-
5	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	70. 5%	77. 9%	79. 1%	85. 2%	_	80%	R3把握→ 80%	76.5%→ 80%以上

## ■上越市食育推進計画の推移

	第 1 次計画	第2次計画	第3次計画
計画期間	平成 19 年度~平成 23 年度	平成 24 年度~平成 28 年度	平成 29 年度~令和 3 年度
キーワード	「食育」の周知・啓発	「周知」から「実践」へ	「実践」の環を広げよう
計画策定の趣旨	<ul> <li>・食生活をめぐる環境の変化に伴い、栄養バランスの乱れや生活習慣病などが増加する中、食に関する問題や課題を個人や家庭だけで解決することが困難な状況にある。</li> <li>・家庭を中心に学校や地域が一体となって食生活の向上を目指していく必要がある。</li> <li>・市民の「食育」に対する関心を高めて健康で豊かな食生活を営むことができるようにしていくことは市の重要な課題。</li> </ul>	<ul> <li>・第1次計画の下、行政、教育関係者、農林漁業者、食品関連事業者、市民が一体となって課題を克服する取組を実施。</li> <li>・食育推進に向け着実に成果を上げてきているが、家庭における食育推進は大きな課題。</li> <li>・健康で文化的な市民の生活を少しずつ形成していくため、粘り強く継続した取組が不可欠。</li> </ul>	・10年間の食育推進計画に基づく取組の結果、学校や保育園現場における食育の充実など、一定の進展がみられたが、経済情勢や市民意識の変化、生活環境の変化により、食育の重要性を認識しながらも、家庭での食育の実践が浸透しているとは言えない状況。 ・食習慣の改善、自己の健康管理、食に関する体験活動等の取組を粘り強く継続する必要がある。
食育により 実現する将 来像	市民の生涯にわたる心身ともに健康で充実した生活を実現する	市民の生涯にわたる心身ともに健康で充実した生活を実現する	生涯にわたり心身ともに健康で充実した生活を送れるまち
基本目標	市民一人ひとりが自らの健康に関心を持って食を選びとってい く力を身につける	市民一人ひとりが自らの健康に関心を持って食を選びとってい く力を身につける	市民一人ひとりが自らの健康に関心を持って食を選びとってい く力を身につける
基本方針と 取組の方向 性	1 食べることの大切さを意識しておいしいものを楽しく食べます (家庭を中心に子どもの時から生涯にわたる食を通じた心身の健康づくりの推進) ・市民の健全な食生活の実現 ・子どもたちの発達段階に応じた食習慣の確立 ・家庭、学校、地域その他あらゆる機会及び場所の活用	1 食べることの大切さを意識しておいしいものを楽しく食べます (家庭を中心に子どもの時から生涯にわたる食を通じた心身の健康づくりの推進) ・市民の健全な食生活の実現 ・子どもたちの発達段階に応じた食習慣の確立 ・家庭、学校、地域その他あらゆる機会及び場所の活用	1 家庭を中心に子どもの時から生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します ・一人ひとりの年齢や環境に応じた食習慣の確立 ・市民の健全な食生活の実現による健康寿命の延伸 ・家庭、学校、地域その他のあらゆる機会及び場所の活用
	2 地域伝統の食文化からおいしいものを学びます (食育活動の推進による地域の食文化の継承) ・将来にわたって郷土の優れた食文化を継承すること	2 地域伝統の食文化からおいしいものを学びます (食育活動の推進による地域の食文化の継承) ・将来にわたって郷土の優れた食文化を継承すること	2 食育活動の推進により地域の食文化を継承します (特色ある食文化の理解と継承) ・郷土の優れた食文化の継承
	3 市民が集まっておいしい情報を共有します (食育推進体制の整備と情報を共有できる環境づくりの推進) ・食の安全性の確保 ・食に関する正確な情報の共有 ・食育を推進する多様な主体の相互の理解及び協力の促進	3 市民が集まっておいしい情報を共有します (食育推進体制の整備と情報を共有できる環境づくりの推進) ・食の安全性の確保 ・食に関する正確な情報の共有 ・食育を推進する多様な主体の相互の理解及び協力の促進	3 食育推進体制の整備と情報を共有できる環境づくりを推進 します ・食育推進体制の整備 ・共通理解の促進 ・食の安全性の確保
	4 上越地域の安全で安心なおいしいものを見つけます (食育活動の推進による上越の農林漁業への理解促進) ・生産者と消費者との信頼関係の確立 ・環境と調和した農林漁業の持続的発展 ・地域内での自給を基本とした地産地消の推進	4 上越地域の安全で安心なおいしいものを見つけます (食育活動の推進による上越の農林漁業への理解促進) ・生産者と消費者との信頼関係の確立 ・環境と調和した農林漁業の持続的発展 ・地域内での自給を基本とした地産地消の推進	4 食育活動の推進により上越の農林漁業への理解を促進します ・地域内での自給を基本とした地産地消の推進 ・生産者と消費者の信頼関係の確立 ・環境と調和した農林漁業の持続的発展

## 第3次上越市食育推進計画の取組の現状

## 〇アクションプランの進捗管理(参考:資料No.1)

令和2年度アクションプランでは、47の事業に取り組み、ほとんどの事業で成果が上がっている。引き続き、 各ライフステージに応じた取組が必要である。

## 〇第3次計画の指標項目の取組状況(参考:資料No.3)

## 基本方針 1 家庭を中心に子どもの時から生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進

- ・指標項目の数値としては、大きく変動している項目はなく、微増状況にある。
- ・「虫歯のない児童・生徒の割合」は、令和2年度に全ての世代で目標値に達している。
- ・「ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合」「生活習慣病の予防や改善に向けた食生活を実践する市民の割合」 「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合」は、目標値から10 ポイント以上の開きがあり、今後も継続的な取組が必要である。

## 基本方針 2 食育活動の推進による地域の食文化の継承

・「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し伝えている市民の割合」は目標値に達して いるが、「伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合」は伸びていない。若い世代が伝統的な料 理の伝承を理解し、関心を持つ取組が必要である。

## 基本方針3 食育推進体制の整備と情報を共有できる環境づくりの推進

・食育推進ネットワークの解散により、市内で食育に取り組んでいる団体等との連携が希薄になりつつある。 食育関係団体との連携、食育活動の情報発信については、市で把握している取組が少ないことから、食育が 全市民的運動となるよう更なる検討が必要である。

## 基本方針4 食育活動の推進による上越の農林漁業への理解の促進

- ・学校給食は、子どもたちが食を学ぶ機会であるため、地場産物の使用は継続して取り組む必要がある。
- ・「農業体験を行っている小学校数」は、策定時から変わらず目標値に達していることから、生産から消費ま でを一体的に学ぶなど、体験内容を更に充実させる必要がある。

## 令和2年度第2回上越市食育推進会議で出された第4次計画についての委員意見

### 【朝食の欠食】

・子どもの朝食欠食が課題。子どもが自分で作る、親の朝食への理解が得られる対策が必要。

### 【成人・高齢者の食育の推進】

- ・成人・高齢者は改善すべき点が多い。事業の中で引き続き啓発活動を実施していけばいい。
- ・高齢者の低栄養の問題をBMIなどの数値的なところで評価していくことも必要である。

### 【食育情報の発信】

- ・上越市には美味しい食べ物がたくさんある。市民や全国の人に情報発信ができればいい。
- ・生まれたときから亡くなるまで、それぞれの年代に対する食育情報の発信が必要。

### 【体づくり、生活リズム】

- ・コロナ禍においては、生活リズムや食事を通じた健康な体づくりが大切になる。
- ・車社会における運動不足の問題がある。運動する機会を積極的に広めていくことも必要。

### 【家族との共食】

・子どもと一緒にご飯を食べられない保護者が増えている。家族の「共食」に力を入れていきたい。

### 【農林漁業体験】

- ・子どもの食への関心を高めるには農林漁業体験が重要。
- ・学校給食の時間を活用し、食材や生産者の紹介などを行ってはどうか。

### 【その他】

- ・コロナ禍における食育推進のガイドラインの作成。
- ・現計画は市役所主導型。市民が行っている食育活動を次期計画に組み込んでほしい。

## 国の第4次食育推進基本計画(計画期間:令和3~7年度)の概要

国の第4次食育推進基本計画では、3 つの重点事項を柱に、SDGsの考え方を踏まえ、食育を総合的かつ 計画的に推進。

|重点事項 1| 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進(国民の健康の視点)

重点事項2 持続可能な食を支える食育の推進(社会・環境・文化の視点)

「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進(横断的な視点) 重点事項3

## <第4次計画で推進する内容>

- 1 家庭における食育の推進(乳幼児期からの基本的な生活習慣の形成、在宅時間を活用した食育の推進)
- 2 学校、保育所等における食育の推進(栄養教諭の一層の配置促進、学校給食への地場産物の利用促進)
- 3 地域における食育の推進

(健康寿命の延伸、職場における食育推進、地域における食育推進、災害時に備えた食育推進等)

- 4 食育推進運動の展開(食育活動表彰、全国食育推進ネットワークの活用、デジタル化への対応)
- 5 生産者と消費者との交流促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等 (農林漁業体験や地産地消の推進、持続可能な食につながる環境に配慮した消費、食品ロス削減)
- 6 食文化の継承のための活動への支援等

(地域の多様な食文化の継承、ボランティア活動の取組、学校給食等での郷土料理等の導入)

7 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進 (食品の安全性や栄養等に関する情報提供、食品表示の理解促進)



## 第4次上越市食育推進計画の方向性(案)

- 1 各ライフステージに応じた食育の推進
  - →これまでと同様、各ライフステージに応じた切れ目のない食育の推進
- 2 食べることの楽しさ、地場産物のおいしさを感じる食育の推進
  - →「食」への関心を高め、家族が一緒に食べることの楽しさ、地場産物のおいしさを感じ、「食 べることは楽しい」を実感できる食育の推進
- 3 市内の食育活動を行う団体との連携
  - →市が行う食育推進事業のほか、市内の食育関係団体や組織と連携して事業を行う。また、食 育に取り組んでいる市民の活動紹介を行うなど、全市民的運動としての食育の推進
- 4 デジタル化に対応した食育の推進
  - →市ホームページやSNSを活用し、在宅時間や学校教育現場で活用できる情報の発信
- 5 上越市の特徴を生かした農林漁業体験の充実
  - →海・山・大地が広がり、自然豊かな上越市において、農業をはじめとした農林漁業体験がで きることを上越市の強みと捉えた体験の充実

## 令和3年度「食育に関する市民アンケート」の実施について

### 1 調査目的

市民の食育に対する関心や知識の現状と食育を実践している市民の割合を把握し、今後も全市民的運動として食育を推進していく上での施策の参考とするため、市民に対してアンケート調査を行う。

(第3次計画の指標検証データ及び第4次計画の市民の現状値の収集)

### 2 調査対象

市の住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民 3,000 人を無作 為で抽出(令和3年4月1日現在満18歳以上…高等学校卒業以上)

## 3 調査期間

令和3年8月下旬から20日間程度実施

## 4 調査方法

郵送によるアンケートの配布及び回収

## 5 調査項目

- (★) は第3次食育推進計画の指標項目
- (◆) はアクションプランの各事業の目標値

	(▼)はアクションノブンの各事業の日標値							
No.	令和元年度のアンケート項目	県	玉					
1	回答者の性別及び年齢							
2	食育に対する認識度							
3	食育に対する関心度(★)	$\circ$	0					
4	食育に対する関心がある理由							
5	食育月間、食育の日の認知度(◆)							
6	食育に関する情報の入手先							
7	食生活の実践の程度(★◆)							
	・食べることを楽しんでいるか							
	・規則正しい食事から健やかな生活リズムを心がけているか							
	・ごはんを中心とした和食を実践しているか							
	・生活習慣病の予防や改善のための実践							
	(適正体重の維持、塩分)		0					
	・ゆっくりよく噛んで食べているか		$\circ$					
8	栄養バランスに配慮した食生活の実践の程度 (★)	$\circ$	$\circ$					
9	朝食の欠食割合 (★) ※若い世代	$\circ$	$\circ$					
10	家庭での料理の頻度 (◆)							

No.	令和元年度のアンケート項目	県	国
11	家庭菜園などの作物体験の有無 (◆)		
12	家族との食事について (★)		$\circ$
13	地域等での共食について (★)		$\circ$
14	伝統・郷土料理や食事の作法の継承と伝承(★)		$\circ$
15	食品購入時に特に意識すること		
16	食品購入時の安全性の判断基準		$\circ$
17	食品の安全性に関する知識 (★)		
18	安全な食生活を送る判断基準(★)		
19	食品ロスの認知度と実践度 (★)	$\circ$	0
20	市や NPO、企業などの食育に関する取組の参加意向		

※その他、新型コロナウイルス感染症に伴う生活スタイルや食に関する意識の変化を把握する項目、第 4 次計画の基礎資料となる項目を追加

## 令和元年度「食育アンケート」調査票

### 「食育アンケート」の目的

- 〇市では平成29年3月に、平成29年度から令和3年度までの市の食育施策の基本方針となる「第3次上越市食育推進計画」を策定し、様々な施策を進めています。
- ○全市民的運動として食育を推進していく上で、今後の施策の参考とするため、市民の皆さんを対象 とした実態調査を行います。
- ○このアンケートは、無作為で抽出した18歳以上の市民の方、3,000人にお送りしています。

次の設問をお読みになり、当てはまる記号(ア、イなど)に〇印をつけてください。 また、回答に当たっては設問中の≪解説≫を読み、お答えください。

### Q1 あなたご自身の性別と満年齢(令和元年12月1日現在)を次の中から1つずつ選択してください。

性別 ア. 男性

イ. 女性

年齢 ア. 18 歳~19 歳

イ. 20 歳~29 歳

ウ. 30歳~39歳

エ. 40歳~49歳

才. 50 歳~59 歳

カ. 60 歳~69 歳

キ. 70歳以上

## 【「食育」への関心について】

### ≪解説≫「食育」とは \_\_\_

「食育」は、心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践することができる人を育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身につけたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

- Q 2 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。次の中から<u>1つだけ</u>選択してください。
  - ア. 言葉も意味も知っていた
  - イ. 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
  - ウ. 言葉も意味も知らなかった
- Q3 あなたは「食育」に関心がありますか。次の中から<u>1つだけ</u>選択してください。
  - ア. 関心がある
  - イ. どちらかといえば関心がある
  - ウ. どちらかといえば関心がない
  - エ. 関心がない
  - オ. わからない

## Q4 あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。当てはまるもの全てを選択してください。

- ア. 子どもの心身の健全な発育に必要だから
- ウ. 肥満や痩せすぎが問題になっているから
- オ. 食品の安全性が気になるから
- キ. 地域の食材や旬のものを食べたいから
- イ. 食生活の乱れが問題になっているから
- エ. 生活習慣病の増加が問題になっているから
- カ. 地域の食文化や伝統を守ることが重要だから
- ク. 食べ残しなどの食品廃棄物が問題だから

- Q5 あなたは6月の「食育月間」、毎月19日の「食育の日」を知っていますか。
  - ア. どちらも知っている
  - イ. 6月の「食育月間」のみ知っている
  - ウ. 毎月19日の「食育の日」のみ知っている
  - エ、どちらも知らない
- Q 6 あなたは、食育に関する情報をどこから入手していますか。当てはまるもの<u>全てを</u>選択してくだ さい。
  - ア. 広報上越
  - ウ. テレビ、ラジオ
  - 才. 家族、友人、知人
  - キ. 職場
  - ケ. 生産者 (農家)
  - サ. その他(
  - シ. 特にない

- イ. 新聞、雑誌、本
- エ. インターネット
- カ. 学校
- ク. 医療機関、保健所、保健センター
- コ. スーパーマーケット、食料品店

)

## 【現在の食生活・生活習慣について】

Q7 あなたは、普段の食生活で、下記の内容をどの程度実践していますか。①から⑤の項目全てについてア~エをそれぞれ1つずつ選択してください。

①食べることを楽しんでいる
②規則正しい食事から、健やかな生活リズムを心掛けて いる
③ごはんを中心とした和食(日本型食生活)を実践している
④生活習慣病の予防や改善のため、適正体重の維持や減 塩等に気をつけた食生活を実践している
⑤食事の際に、ゆっくりよく噛んで食べている

	ほとんど できている	おおむね できている	あまり でさい	まったく できて いない
⇒	P	7	ウ	Н
⇒	ア	7	ウ	Н
⇒	ア	イ	ウ	工
⇒	ア	7	ウ	Н
	ア	1	ウ	エ

- Q8 あなたは、主食(ごはん、パン、麺など)・主菜(肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理)・副菜(野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理)を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。次の中から1つ選択してください。
  - ア. ほぼ毎日
  - イ. 週に4日~5日
  - ウ. 週に2日~3日
  - エ. ほとんどない

- Q9 あなたは普段朝食を食べますか。次の中から1つだけ選択してください。
  - ※ここでいう「朝食を食べる」とは、エネルギー源となる食べ物、飲み物を飲食した場合のことをいいます。砂糖・ミネラルを加えないお茶類(日本茶・コーヒー・紅茶など)、水及び錠剤・カプセル・顆粒状のビタミン・ミネラルしか取らない場合は、「朝食」を食べたことに含めないでください。
  - ア. ほとんど毎日食べる
  - イ. 週に4日~5日食べる
  - ウ. 週に2日~3日食べる
  - エ. ほとんど食べない
- Q10 あなたは、家庭で料理をしていますか。次の中から1つ選択してください。
  - ア. ほぼ毎日
  - イ. 週に4日~5日
  - ウ. 週に2日~3日
  - エ. ほとんどしていない
- Q11 あなたは、家庭菜園(畑やプランター)などで作物栽培等をしていますか。次の中から1つ選択してください。
  - ア. している
  - イ. していない
- Q12 家族との食事についておたずねします。
- ① あなたの家族構成について、あなたが同居している方はあなたを含めて何人ですか。次の中から 1つだけ 選択してください。
  - ア. 1人
  - イ. 2人
  - ウ. 3人
  - 工. 4人
  - 才. 5人
  - 力. 6人
  - .キ. 7人以上
  - 家族と同居している方のみに(①で「イ」から「キ」と回答した方)おたずねします。
  - ② あなたが朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数は1週間にどのくらいありますか。()に回数を記入してください。※1週間7日で朝食・夕食2回、14回を最大とします。
    - 1週間に()回

- Q13 地域等での共食についておたずねします。
  - ① 地域や所属コミュニティ (職場等を含む)での食事会等の機会があれば、あなたは参加したいと思いますか。次の中から 1つだけ選択してください。
  - 「ア.とてもそう思う
  - イ. そう思う
  - ウ. どちらともいえない
  - エ. あまりそう思わない
  - オ. 全くそう思わない
  - ② ①でア(とてもそう思う)またはイ(そう思う)を選択した方にお聞きします。 あなたは過去1年間に、地域や所属コミュニティでの食事会等に参加しましたか。
  - ア.参加した
  - イ.参加していない

## 【地域の食文化について】

- Q14 伝統・郷土料理や作法の継承・伝承についておたずねします。
- ① あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。次の中から1つだけ選択してください。
  - ア. 受け継いでいる
  - イ. 受け継いでいない
- ② ①でア(受け継いでいる)と回答した方におたずねします。 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継いできた料理や味、箸づかいなど の食べ方・作法を地域や次世代(子やお孫さんを含む)に対し伝えていますか。次の中から1つだけ 選択してください。
  - ア. 伝えている
  - イ. 伝えていない

### 【食品の選択について】

- Q15 あなたが、食品を購入する際に特に意識していることを2つまで選択してください。
  - ア. 地場産や国産であること イ. おいしさ ウ. 価格 エ. 健康 オ. 安全性
  - カ. 栄養のバランス キ. エネルギー量 (kcal) ク. 特に意識していない
  - ケ. その他( )
- Q16 あなたが、食品を購入する際に安全性をどのように判断しますか。次の中から2つまで選択して ください。
  - ア. 色、つやなど見た目はどうか
- イ. いやなにおいや変な感触がないか
- ウ. 生産者や製造業者はだれか
- エ. 信頼できる販売店舗かどうか

オ. 国産品か輸入品か

カ. 賞味期限や品質保持期限はいつか

)

- キ. 認証マークなどが添付されているか ク. 食品添加物の使用状況はどうか
- ケ. 有機栽培など特別な栽培方法で育成されたものか
- コ. その他(
- Q17 あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていると思いますか。次の中から 1 つだけ選択 してください。

「食の安全に関する知識」とは、次のようなものに関する知識とお考えください。

- 食品表示の見方について (消費期限や賞味期限、保存料などの食品添加物、遺伝子組み換え食品、食物アレルギーなど)
- ・食中毒の予防について
- 健康食品について
- ・その他、輸入食品の安全性など
- ア. 持っていると思う
- イ. ある程度持っていると思う
- ウ. あまり持っていないと思う
- エ. ほとんど持っていないと思う
- Q18 あなたは、安全な食生活を送ることについてどの程度判断していますか。次の中から 1 つだけ選 択してください。
  - ア. いつも判断している
  - イ. 判断している
  - ウ. あまり判断していない
  - エ. 全く判断していない

## 【食品の廃棄について】

### Q19 食品ロスについておたずねします

### ≪解説≫『食品ロス』について ---

日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品(食品ロス)が平成28年度で年間約643万トン発生していると推計されています。これは1日1人あたり、ごはん茶わん1杯分を捨てていると同じ計算になり、大きな問題となっています。

- ① あなたは、こうした「食品ロス」という問題を知っていますか。次の中から1つだけ 選択してください。
  - ア. 知っている
  - イ. ある程度知っている
  - ウ. あまり知らない
  - エ. ほとんど・まったく知らない
- ② あなたは、「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。次の中から当てはまる もの全てを選択してください。
  - ア. 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べ切れる量を購入する
  - イ. 冷凍保存を活用する
  - ウ. 料理を作り過ぎない
  - エ. 飲食店等で注文し過ぎない
  - オ. 日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する
  - カ.「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する
  - キ. 残さず食べる
  - ク. 宴席において、料理を食べ切る時間を設けている
  - ケ. その他(
  - コ. 取り組んでいることはない

### 【その他】

- Q20 市や NPO、企業などの食育に関する取組で、あなたが参加してみたいと思うものはありますか。 次の中から<u>3つまで</u>選択してください。
  - ア. 子どもに対する食育活動や講座
  - イ. 生活習慣病の予防などの健康づくりのための食生活に関する活動や講座
  - ウ. 郷土料理、伝統料理など食文化継承活動や講座
  - エ. 食品の安全性など適切な食品選択のための活動や講座
  - オ. 食品廃棄や食品リサイクルに関する活動や講座
  - カ. 農業・収穫体験など農林漁業などに関する体験活動や講座
  - キ. 食品工場見学などの活動や講座
  - ク. 食育に関する講演会
  - ケ、その他(
  - コ. 参加してみたいと思う取り組みはない

## ■国・県の食育計画の指標項目(参考)

<国の第4次食育推進基本計画の指標項目・目標値>

# 第4次食育推進基本計画における食育の推進に当たっての目標

目標		
具体的な目標値 <del>(追加・見直しは黄色の目標値)</del>	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)
1 食育に関心を持っている国民を増やす	-	
①食育に関心を持っている国民の割合	83. 2%	90%以上
2朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回	数を増やす	
②朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回 ②数	週9.6回	週11回 以上
3地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増	やす	
③地域等で共食したいと思う人が共食する割合	70. 7%	75%以上
4朝食を欠食する国民を減らす		
④朝食を欠食する子供の割合	4.6%*	0%
⑤朝食を欠食する若い世代の割合	21.5%	15%以下
5 学校給食における地場産物を活用した取組等を増	やす	
※栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平 6 均取組回数	月9.1回※	月12回以上
⑦学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を 現状値(令和元年度)から維持・向上した都道府県の割合	_	90%以上
8学校給食における国産食材を使用する割合(金額ベース)を 現状値(令和元年度)から維持・向上した都道府県の割合	_	90%以上
6 栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民を	曽やす	
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以 9上ほぼ毎日食べている国民の割合	36. 4%	50%以上
⑩主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	27. 4%	40%以上
⑪1日当たりの食塩摂取量の平均値	10.1g%	8g以下
121日当たりの野菜摂取量の平均値	280.5g*	350g以上
③1日当たりの果物摂取量100g未満の者の割合	61.6%※	30%以下

注) 学校給食における使用食材の割合(金額ベース、令和元年度)の全国平均は、 地場産物52.7%、国産食材87%となっている。

目標					
具体的な目標値 (iâm・見直しは黄色の目標値)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)			
7 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の約 食生活を実践する国民を増やす	推持や減塩等に	気をつけた			
(生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民の割合	64.3%	75%以上			
8 ゆっくりよく噛んで食べる国民を増やす					
⑤ゆっくりよく噛んで食べる国民の割合	47.3%	55%以上			
9 食育の推進に関わるポランティアの数を増やす					
食育の推進に関わるポランティア団体等において活動している国民の数	36. 2万人※	37万人以」			
10 農林漁業体験を経験した国民を増やす					
①農林漁業体験を経験した国民(世帯)の割合	65. 7%	70%以上			
11 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国	民を増やす				
<u>・</u> 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	73. 5%	80%以上			
2環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす					
19環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合	67.1%	75%以上			
13 食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民	を増やす				
	70.070	80%以上			
14 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法 る国民を増やす	等を継承し	、伝えてし			
①地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合	50.4%	55%以上			
②郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合	44.6%	50%以上			
15 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判	断する国民	を増やす			
②食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判 ③断する国民の割合	75. 2%	80%以上			
16推進計画を作成・実施している市町村を増やす					
②推進計画を作成・実施している市町村の割合	87.5%*	100%			

※は令和元年度の数値

## <第3次新潟県食育推進計画の指標項目・目標値>

						E tha
重点課題		評価指標項目		現状値 (RI)	目標値 (R6)	長期 目標値(R4) 【第2次計画 で設定】
1,2,3	食育に関心	を持っている県民の割合(成	入	55.6%	90%	90%
	却众之后	小学6年生		3.3%	0%	_
1,2	朝食を欠 食する県 民の割合	15~19歳		2.1%	0%	-
		20~30 歳代		19.8%	15%	-
		ふだんの食事で主食・主 そろえることを意識してい 合(成人)		R2 把握	増加させる	_
	栄養バラ	主食・主菜・副菜を組みて 事が1日2回以上の日か の人の割合(成人)	合わせた食 がほぼ毎日	44.6%	80%	80%
1,2	ンスに配 慮した食 生活を実 践する県	主食・主菜・副菜を組みな事が1日2回以上の日かの人の割合(20~30歳イ	がほぼ毎日	32.2%	55%	52%
	民の割合	ふだんの食事における 状況(成人)	ふだんの食事における減塩の取組 状況(成人)		80%	80%
		食塩摂取量(成人)		10.3g	8g 未満	9g 未満
		野菜摂取量(成人)		325.2g	350g	350g
		果物摂取量 100g 未満(成人)	量 100g 未満の人の割合		39%	39%
	適正体重 を を 終 い 割 合 民 の 割 合	肥満傾向にある子ども	男子	11.3%	7.0%	7.0%
		の割合(小学5年生)	女子	10.4%	7.0%	7.0%
1		20~30 歳代女性やせの人の割合		22.5%	20%	_
•		20~60歳代男性肥満者の割合		31.1%	24%	24%
		40~60歳代女性肥満者の	1.41.14	25.2%	18%	18%
		低栄養傾向(BMI20以下)の 歳以上)の割合	)高齢者(65	16.8%	18%	16%
1	むし歯のな	い3歳児の割合		(H30) 90.4%	95%	90%
1	むし歯のな	い12歳児の割合		84.4%	90%	81%
1	8020達成	者の割合		36.6%	40%	40%
1	定期的に の割合(15	宙石除去や歯面清掃を受 歳以上)	けている人	25.8%	30%	_
1	一口30回帕 (15 歳以上)	んで食べるよう意識してい	る人の割合	19.6%	30%	30%
2	けんこう tim	e 推進店登録店舗数		127 店舗	増加させる	_
2,3	活動した食育ボランティアの人数(延べ)			88 人	110人	_
3	学校給食における県産農林水産物を使用する 割合(金額ベース) <sup>※2</sup>			66.1% [全国9位]	全国7位 以内を目 指す	_
3	学校給食》 割合(金額	こおける国産農林水産物 ベース)**2	を使用する	91.6% [全国7位]	全国5位 以内を目 指す	_
3	食品ロス削 民の割合	減のために何らかの行動	している県	R3 把握	80%	-
3	災害時に対 の割合	†応できる食料品を備蓄し	ている県民	33.0%	36%	現状(H25) より5%増

<sup>※1</sup> 目標の設定と目標値の考え方は、P51、52 参照※2 6月と11月の各1週間を調査期間としています。また、目標は通年の目標値です。